第２調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1 SP34	甕 (土師器)	口径 14.8	上内方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラ削り。	淡茶褐色	5mm以下の長石・雲母・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
2 一二二 SP39	壺 (弥生式土器)	口径 7.5 器高 12.7 底径 3.8 最大径 10.7	偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出した平底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラミガキ、内面ナデ。	乳茶灰色	5mm以下の長石・雲母・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	完形。
3 一二二 SP39	鉢 (弥生式土器)	口径 8.0 器高 7.5 底径 3.6	上外方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はやや上につまむ。底部はやや突出した窪み底。体部中位には焼成後の穿孔が穿かれている。内面に１本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ヘラナデ、底面ナデ。	外 淡茶灰色 内 暗茶灰色	4.5mm以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	完形。 体部内面に炭化物付着。
4 一二二 SD6	甕 (土師器)	口径 16.2 器高 16.0 底径 3.9	楕円形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部はやや突出した平底。頸部内面に２本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、頸部外面ハケナデ（7本）、体部外面タタキ（3本）、内面ヘラナデ。	乳茶色	1.5mm以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良	底部外面に黒斑有。
5 一二二 SD6	鉢 (土師器)	口径 9.0 器高 6.8 底径 3.8	半球形に近い体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部はやや突出した平底。 外面ナデ・指頭痕、口縁部内面・体部上位内面ヨコナデ、下位ヘラナデ。	淡赤褐色	1mm以下の長石・チャート・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	体部外面下位に黒斑有。
6 一二二 SK13	甕 (土師器)	口径 18.4	内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚し、内傾して凹面をもつ。体部は欠損。 内外面摩耗の為調整不明瞭。	外 暗茶褐色 内 淡茶褐色	3mm以下の長石・雲母・石英・角閃石等の砂粒を多く含む。	良好	
7 一二二 SK13	同上	口径 16.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚し、内傾する面をもつ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（9本）、内面ヘラ削り。	淡赤褐色	1mm以下の砂粒を多量に含む。	良好	
8 SK13	同上	口径 22.4	内外方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、上に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（4本）、内面ナデ。	淡茶褐色	2mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
9 SK13	同上	口径 13.0	口縁部は上外方へ伸び、端部は内方に肥厚し、内傾する面をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡黄褐色	2mm以下の長石等の砂粒を多量に含む。	不良	
10 一二二 SK13	同上	口径 18.4	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（8本）、内面指押さえ。	外 赤褐色 内 淡茶色	3mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
11 一二二 SK13	同上	口径 23.2	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面指押え。	淡赤褐色	2mm以下の長石等の砂粒を多量に含む。	不良	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
12	甕 (土師器) SK13	口径 12.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ短く外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(8本)、内面摩耗の為調整不明瞭。	淡茶褐色	3mm以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	体部外面に煤付着。
13	杯 (土師器) SK13	口径 12.8	上外方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ、体部外面ナデ、下位ヘラ削り、内面ナデ。	淡橙色	0.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
14	高杯 (土師器) SK13	底径 8.2	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びる柱状部から、外下方へ外反気味に開く裾部に至る。端部は丸い。 柱状部外面上位ハケナデ(10本)、裾部内面指ナデ、他はナデ。	明茶色	2mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
15	杯蓋 (須恵器) SK13	口径 12.4 稜径 11.2	やや高く丸い天井部から下外方へ内湾して伸び、稜に至る。稜は痕跡有り。口縁部は下外方へ内湾気味に伸び、端部は下に凹面をもつ。 天井部外面静止ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	2mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
16 一二二	同上 SK13	口径 12.0 器高 4.0 稜径 12.0	やや低く丸みをもつ天井部から外下方へ伸び、稜に至る。稜は水平に伸び、鈍く尖る。口縁部は下方へ伸び、端部は内傾する凹面をもつ。 天井部外面約1/4 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	明青灰色	精良。	良好	天井部外面灰かぶり。ロクロ左方向。
17 一二二	同上 SK13	口径 12.2 器高 4.2 稜径 11.5	低く丸みをもつ天井部から外下方へ内湾して伸び、稜に至る。稜は水平に伸び、鈍く尖る。口縁部は下方へ内湾気味に伸び、端部は下に凹面をもつ。 天井部外面約1/8 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	明青灰色	精良。	良好	天井部外面に自然釉・灰かぶり。ロクロ左方向。
18 SK13	同上	口径 13.0 器高 4.2 稜径 12.8	やや低く平らな天井部から外下方へ伸び、稜に至る。稜は水平に伸び、鈍く尖る。口縁部は下方へ伸び、端部は内傾する凹面をもつ。 天井部外面1/2 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰褐色	0.5mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
19 一二二	同上 SK13	口径 13.2 器高 4.5 稜径 13.1	やや低く平らに近い天井部から外下方へ内湾して伸び、稜に至る。稜は水平に伸び、鈍く尖る。口縁部は下外方へ伸び、端部は内傾する面をもつ。 天井部外面3/4 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗青灰色	3mm以下の砂粒を少量含む。	良好	完形。ロクロ左方向。
20 一二三	同上 SK13	口径 13.4 器高 4.7 稜径 13.4	やや高く平らな天井部から外下方へ内湾して伸び、稜に至る。稜は水平に伸び、鈍く尖る。口縁部は下方へ伸び、端部は内傾する凹面をもつ。 天井部外面約1/3 回転カキ目、他は回転ナデ。	青灰色	精良。	良好	外面灰かぶり。ロクロ左方向。
21 一二三	同上 SK13	口径 12.2 器高 3.7 稜径 11.7	低く丸みをもつ天井部から外下方へ伸び、稜に至る。稜は水平に伸び、鈍く尖る。口縁部は下外方へ伸び、端部は丸い。 天井部外面1/2 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	3mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
22 一二三	杯身 (須恵器) SK13	口径 11.0 器高 4.7 受部径 14.0 立ち上がり高 1.1	深くやや円状の底体部から上外方へ内湾して伸び、受部に至る。受部は水平に伸び、鈍く尖る。立ち上がりは上内方へ外反して伸びる。端部は丸い。 底部外面不定方向のナデ、他は回転ナデ。	乳灰褐色	精良。	良好	ロクロ方向不明。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
23	杯身 (須恵器) SK13	口径 8.8 受部径 10.8 立ち上がり高 1.3	深く丸いと思われる底体部から上外方へ伸び、受部に至る。受部は外上方へ伸び、鈍く尖る。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は内傾する凹面をもつ。 底体部外面1/3 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	精良。	良好	底体部外面灰かぶり。 ロクロ左方向。
24 一二三	同上 SK13	口径 11.0 器高 5.2 受部径 13.4 立ち上がり高 2.0	深くやや円状の底体部から上外方へ内湾して伸び、受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは上内方へ外反して伸びる。端部は内傾する凹面をもつ。 底体部外面2/3 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外 淡灰褐色－乳灰色 内 乳灰色	1mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良	ロクロ方向不明。
25 一二三	同上 SK13	口径 11.3 器高 4.3 受部径 12.9 立ち上がり高 1.9	やや深く平らに近い底体部から上外方へ内湾して伸び、受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは内上方へ伸びた後上方へ伸び、端部は内傾して凹面をもつ。 底体部外面1/3 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	明青灰色	精良。	良好	ロクロ方向不明。
26 一二三	同上 SK13	口径 11.4 器高 5.0 稜径 13.6 立ち上がり高 1.9	深く平らな天井部から上外方へ内湾して伸び、受部に至る。受部は水平に伸び、鈍く尖る。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は内傾する面をもつ。 底体部外面1/2 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡青灰色	2mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
27 一二三	同上 SK13	口径 10.6 器高 4.5 受部径 12.8 立ち上がり高 1.6	深く平らな天井部から上外方へ内湾して伸び、受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸い。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は内傾する凹面をもつ。 底体部外面約1/2 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	4mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	完形。 ロクロ右方向。
28	壺 (須恵器) SK13	口径 12.4	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。口縁部外面上位に1条の凸線と、下位に1管8本の波状文が巡る。 内外面回転ナデ。	淡灰青色	精良。	良好	内面灰かぶり。 ロクロ方向不明。
29 一二三	同上 SK13	口径 28.2	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。口縁部外面上位に1条の凸線が巡る。 内外面回転ナデ。	外 淡灰褐色 内 乳灰色	1mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良	内面灰かぶり。 ロクロ方向不明。
30 一二三	中皿 (土師器) SK17	口径 15.0 器高 3.4	平らな底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内面ヨコナデ、他はナデ。	淡赤褐色	0.5mm以下のチャート雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
31 一二三	同上 SK17	口径 13.0 器高 3.6	平らに近い底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は僅かに上外方へつまみ、丸い。 外面ナデ・指頭痕、内面ナデ。	淡茶色	2mm以下の長石・雲母石英等の砂粒を少量含む。	良好	
32 SP69	壺 (土師器)	底径 4.0	体部上位以上は欠損。体部は外上方へ伸びる。底部は突出気味の窪み底。 外面指頭痕、内面ヘラナデ。	淡橙色	1mm以下の長石・チャート・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良	
33 SP79	同上	口径 12.4	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 乳灰茶色 内 淡茶褐色	2mm以下の長石・雲母・赤褐色酸化粒等の砂粒を多量に含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土 (cm)	地点 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
34	壺 (土師器) SP79	口径	20.0	口縁部は斜外方へ伸びた後屈曲し、上外方へ外反して伸びる。端部は外側に面をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡茶橙色	4mm以下の長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	
35	同上 SP98	口径	12.8	口縁部は上外方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 淡茶褐色 内 明茶灰色	3mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
36	甕 (土師器) SD12	口径	12.4	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	外 暗茶褐色 内 淡茶褐色	5mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
37 一二三	甕 (弥生式土器) 包含層	口径	24.8	内上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は大きく上下に拡張し、外側に面を作る。体部は欠損。頸部外面に凸帯を巡らし、キザミ目を施こす。端部外面に7本の沈線を巡らした後、2段の円形浮文を付ける。体部は欠損。 外面摩耗の為調整不明瞭、口縁部内面ヘラミガキ、体部内面ナデ。	淡茶灰色	4mm以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
38 一二三	同上 包含層	底径	4.8	体部は上位以上は欠損。体部は上外方へ内湾して伸びる。底部は突出した小さく窪む平底。 体部外面タタキ後ヘラミガキ、底部指押さえ、内面ハケナデ（8本）後ヘラ削り。	外 淡茶褐色 内 淡灰褐色	3mm以下の長石・石英・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	底面にヘラ記号。
39	高杯 (弥生式土器) 包含層	口径	27.5	杯部は上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する凸面をもつ。杯底部・脚部は欠損。端面にキザミ目を施し、円形浮文を付ける。口縁部には1帯5本と2本の波状文が巡る。 内外面ナデ。	淡茶褐色	2mm以下の長石・雲母・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
40	甕 (弥生式土器) 包含層	口径	12.3	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外方に肥厚し、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ナデ。	淡茶褐色	2mm以下の雲母・長石等の砂粒を少量含む。	良好	内面に炭化物付着。
41	同上 包含層	口径	15.6	上内方へ内湾して伸びる体部から緩やかに屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。体部内面に1本の接合痕を有する。 体部外面タタキ（3本）、他はヨコナデ。	淡橙色	5mm以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
42 一二四	同上 包含層	口径	14.8	球形と思われる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。体部内面中位に1本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）、内面ヘラナデ。	淡茶灰色	3mm以下の雲母・長石等の砂粒を多量に含む	良好	体部外面中位以下に煤付着。
43	同上 包含層	口径	14.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上外方へまつみ出し、外に面をもつ。体部中位以下は欠損。体部内面に1本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ナデ。	外 淡茶褐色 内 淡茶色	1mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
44	同上 包含層	口径	17.4	上内方へ内湾気味に伸びる体部から緩やかに屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はやや上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ヘラナデ。	淡茶褐色	5mm以下の長石・雲母角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
45 一二四	壺 (弥生式土器) 包含層	口径 12.2 最大径 14.8	楕円形と思われる体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	淡茶褐色	2mm以下の長石・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	
46 一二四	同上 包含層	口径 15.0	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ短く伸びた後屈曲して上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。体部中位以下は欠損。体部内面に3本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	外 淡灰茶色 内 乳茶灰色	1mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
47 一二四	同上 包含層	口径 17.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びた後屈曲して上外方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	淡茶褐色	2mm以下の長石・角閃石・雲母・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	
48 一二四	同上 包含層	口径 15.0	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びた後屈曲して上外方へ短く外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	淡茶橙色	3mm以下の長石・石英・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
49 一二四	同上 包含層	底径 4.3	口縁部は欠損。体部は楕円形で、底部は突出した平底。 外面タタキ(2本)、内面ハケナデ(6本)、底面ナデ。	外 淡灰茶色 内 淡灰黄色	1mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	底面にヘラ記号有。
50 一二四	同上 包含層	底径 4.7	口縁部は欠損。体部は楕円形で、底部は突出した平底。底面には葉脈の痕跡がみられる。 外面タタキ(2本)、内面ヘラナデ。	外 淡褐色～茶褐色 内 茶褐色	4.5mm以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	体部外面中位以下に煤付着。 体部内面中位以下に炭化物付着。
51 一二四	同上 包含層	底径 4.6	口縁部は欠損。体部は楕円形で、底部は突出した平底。 外面タタキ(3本)後ヘラ削り、内面ヘラ削り、底面ナデ。	外 茶褐色 内 赤褐色	2mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	外面に煤付着。
52 包含層	同上	底径 3.6	体部中位以上は欠損。体部は上外方へ内湾して伸びる。底部は突出した窪み底。 外面タタキ(3本)、内面ヘラナデ。	外 淡茶褐色 内 明茶色	3mm以下の雲母・長石等の砂粒を少量含む。	良	
53 一二四	同上 包含層	口径 13.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ上げ、外傾する面をもつ。端部面には凹線が巡る。近江地方の特徴をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ハケナデ(5本)。	淡茶橙色	0.5mm以下の雲母等の砂粒を微量に含む。	良好	
54 一二五	鉢 (十師器) 包含層	口径 9.2 器高 5.0	平らな底部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 外面ヘラ削り、内面指押さえ、底面ナデ。	暗赤褐色	2mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	完形。
55 包含層	同上	底径 2.8	体部中位以上は欠損。上外方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。底部はやや突出した窪み底。 外面タタキ(4本)、内面ヘラナデ。	淡茶橙色	4mm以下の長石・石英・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
56 一二五	鉢 (土師器) 包含層	口径 12.2 器高 8.1	半球形の杯体部から上方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部はやや突出した平底。 外面摩耗の為調整不明瞭、内面上中位ナデ、下位ヘラナデ。	淡茶褐色	4mm以下の長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	完形。 外面に黒斑有。
57 一二五	高杯 (土師器) 包含層	底径 11.6	脚部は下外方へ外反して伸びる柱状部から外下方へ開く裾部に至る。端部は丸い。杯部は欠損。裾部上位に三方孔を有する。 内外面調整不明瞭。	淡橙色	3mm以下の長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	
58 一二五	製塩土器 包含層	口径 5.6 最大径 6.6	上外方へ内湾して伸びる体部から上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。体部内面下位に２本の接合痕を有する。 外面タタキ（２本）、口縁部内面上位ナデ、下位・体部内面指ナデ。	外 黒灰色 内 淡茶灰色	1mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
59 包含層	杯蓋 (須恵器)	口径 12.7 器高 4.9 稜径 13.0	高く丸い天井部から下外方へ伸びる稜に至る。稜は水平に伸び、鈍く尖る。口縁部は下外方へ伸び、端部は内傾する凹面をもつ。 天井部外面1/3 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外 灰色 内 暗灰色	1.5mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
60 一二五	杯身 (須恵器) 包含層	口径 12.0 受部径 13.8 立ち上がり高 1.7	丸みをもつと思われる底体部から上外方へ伸び、受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸く終わる。立ち上がりは上方へ伸びる。端部は内傾する凹面をもつ。底部は欠損。 外面約2/9 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	1mm以下の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ左方向。
61 一二五	同上 包含層	口径 10.2 受部径 12.2 立ち上がり高 1.9	丸みをもつと思われる底体部から上外方へ伸び、受部に至る。受部は外上方へ伸び、丸く終わる。立ち上がりは上内方に伸び、端部は内傾する凹面をもつ。底部は欠損。 外面4/9 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	2mm以下の長石等の砂粒を微量含む。	良好	ロクロ右方向。
62 一二五	小型鉢 (須恵器) 包含層	口径 5.8	心字形の体部から上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。体部外面中位には２つの稜があり、その間には一番７本の波状文が巡る。 体部外面下位ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗灰色	精良。	良好	口縁部外面内面に自然釉付着。 ロクロ方向不明。
63 一二五	鉢 (須恵器) 包含層	口径 16.0	上方へ内湾して伸びる体部から口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。底部は欠損。 口縁部・体部外面回転カキ目、底部外面タタキ（３本）後回転カキ目、内面回転ナデ。	暗灰褐色	0.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
64 一二五	大型器台 (須恵器) 包含層	口径 29.2	半球形の杯部から屈曲し、外上方へ短く伸びる。端部は上下に肥厚し、外に面をもつ。脚部は欠損。外面には２条対の稜が２箇所あり、その間に１番５本と、その下で４本の波状文が巡る。 外面下位タタキ（５本）後ナデ、内面中位下円弧タタキ（４本）、他は回転ナデ。	暗青灰色	2mm以下の砂粒を微量含む。	良好	内面灰かぶり。 ロクロ方向不明。

第３調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1 一二六	甕 (弥生式土器) ＳＫ18	口径 14.2 器高 19.5 底径 4.2 最大径 16.8	楕円形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出した小さな窪み底。体部内面下位に１本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（４本）、内面調整不明瞭、底面ナデ。	淡赤褐色	２㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
2 一二六	同上 ＳＫ18	口径 15.0	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（３本）、内面摩耗の為調整不明瞭。	外 淡茶色 内 茶褐色	５㎜以下の長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良	
3 ＳＫ18	同上	口径 16.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（３本）、内面ナデ。	淡灰茶色～茶橙色	2.5 ㎜以下の長石・チャート等の砂粒を多量に含む。	良	
4 一二六	同上 ＳＫ18	口径 15.4	最大径を下位にもつ体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。体部外面中位に１本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（３本）後ナデ、内面ヘラナデ。	外 淡茶灰色 内 淡黄茶色～淡茶褐色	５㎜以下の長石・石英赤褐色酸化鉄等の砂粒を多量に含む。	良好	体部外面中位に煤付着。
5 一二六	同上 ＳＫ18	口径 14.0 器高 20.3 底径 3.8 最大径 17.8	楕円形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出しない平底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（2本）、内面上中位ヘラナデ、下位摩耗の為調整不明瞭。	外 乳茶灰色～明茶灰色 内 淡灰褐色	４㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	完形。
6 一二六	同上 ＳＫ18	口径 16.6 器高 14.4	半楕円形の体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。底部は突出しない平底。口縁部外面・頸部外面に１本ずつ接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（２本）後ヘラ削り、内面ヘラ削り。	外 灰褐色 内 淡茶色	２㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
7 ＳＫ18	同上	口径 14.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。体部内面に１本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（２本）、内面ナデ。	外 茶灰色 内 淡茶灰色	４㎜以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良	
8 ＳＫ18	同上	底径 4.0	体部中位以上は欠損。体部は上外方へ内湾して伸びる。底部は突出した窪み底。 体部外面タタキ（２本）、他はナデ。	外 淡茶灰色 内 茶褐色	３㎜以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
9 ＳＫ18	同上	底径 4.7	体部中位以上は欠損。体部は上外方へ内湾して伸びる。底部は突出した小さな窪み底。 外面タタキ（４本）、内面ナデ。	淡茶褐色	５㎜以下の長石・石英・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	底部内面に炭化物付着。底面にヘラ記号有。
10 ＳＫ18	同上	底径 4.7	体部中位以上は欠損。体部は上外方へ内湾して伸びる。底部は突出した小さな窪み底。 外面タタキ（３本）、内面ナデ。	外 暗茶褐色 内 暗茶橙色	５㎜以下の長石・石英・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
11 ＳＫ18	小型鉢 (弥生式土器)	底径 2.3	口縁部は欠損。杯体部は上外方へ内湾して伸びる。底部は突出しない小さな平底。 外面ナデ、内面ナデ・指頭痕。	外 淡茶灰色 内 淡茶褐色	３㎜以下の雲母・長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	底部外面に黒斑有。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
12 一二六	甕 (弥生式土器) SK9	口径 13.2 器高 15.7 最大径 15.0	球形に近い体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は小さな平底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面摩耗の為調整不明瞭、底部外面指ナデ。	乳橙色	2mm以下の角閃石等の砂粒を多量に含む。	良	
13 SK21	同上	口径 13.8	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面摩耗の為調整不明瞭。	外 淡茶褐色 内 淡茶橙色	3mm以下の長石・石英・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
14 SK21	同上	口径 15.6	口縁部は上外方へ外反して伸びた後屈曲し、上外方へ伸びる。端部は鋭く尖る。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 乳灰色 内 乳茶褐色	3mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
15 SK21	同上	口径 19.0	口縁部は上外方へ内湾して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 淡茶褐色 内 淡灰褐色	2mm以下の長石・角閃石・雲母等雲砂粒を多量に含む。	良好	
16 SK22	同上	底径 4.1	体部中位以上は欠損。体部は外上方へ伸びる。底部は突出した窪み底。 外面タタキ(3本)、内面ヘラナデ、底面ナデ。	外 淡茶灰色～暗灰茶色 内 暗褐灰色	3mm以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
17 SD13	壺 (弥生式土器)	底径 3.3	体部中位以上は欠損。体部は上外方へ伸びる。底部は突出しない平底。 外面ヘラミガキ、内面ヘラナデ。	外 淡茶灰色 内 淡黒灰色	7mm以下の長石・石英・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
18 一二七 SD13	同上	口径 16.6 器高 26.2 底径 3.8 最大径 23.8	最大径を下位にもつ偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。底部は突出する平底。体部外面下位に2本・内面下位に1本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面剥離の為調整不明瞭、内面ヘラナデ。	外 淡茶灰色～茶橙色 内 暗灰色	6.5mm以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良	体部外面下位に煤付着。
19 一二七 SD13	甕 (弥生式土器)	口径 17.0	上内方へ内湾して伸びる体部から緩やかに屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	淡茶灰色	4mm以下の長石・石英・赤褐色酸化粒・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
20 一二七 SD13	同上	口径 16.6 最大径 17.2	上内方へ内湾して伸びる体部から緩やかに屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(2本)、内面ハケナデ(11本)。	淡茶褐色	4mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
21 SD13	同上	口径 17.2	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は鋭く尖る。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 淡茶褐色 内 明茶色	3mm以下の長石・雲母・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
22 一二七 SD13	同上	口径 16.2	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。頸部内面に1本の接合痕を有する。 口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ、体部外面タタキ(2本)、内面ヘラナデ。	淡茶褐色	4mm以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
23 一二七	甕 (弥生式土器) SD13	口径 13.7 最大径 15.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部下位は欠損。体部外面下位に1本・内面中位に2本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	外 乳茶色～橙茶色 内 淡茶橙色	7mm以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良	体部外面中位以下に煤付着。
24 一二七	同上 SD13	口径 14.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ヘラナデ。	外 茶褐色 内 暗茶褐色	6mm以下の長石・雲母・石英等の砂粒を多量に含む。	良	
25 一二七	同上 SD13	口径 14.8	内上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ナデ。	淡茶褐色	5mm以下の長石・雲母角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
26 SD13	同上	口径 16.6	上内方へ伸びる体部から緩やかに屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上に僅かにつまみ、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ナデ。	淡茶褐色	3mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
27 一二七	同上 SD13	口径 16.6	内上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(2本)、内面ナデ。	淡茶橙色	3mm以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
28 SD13	同上	口径 12.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、外に面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面タタキ(2本)、内面摩耗の為調整不明瞭。	乳茶色	3mm以下の長石・赤褐色酸化粒・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
29 一二七	同上 SD13	口径 15.9	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外傾する面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(2本)、内面ナデ。	外 淡茶褐色～暗茶褐色 内 淡茶灰色	4mm以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
30 SD13	同上	口径 16.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	外 淡茶橙色 内 淡茶褐色	5mm以下の長石・角閃石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
31 SD13	鉢 (弥生式土器)	底径 2.4	杯部上位以上は欠損。体部は上外方へ内湾して伸びる。底部は突出しない平底。 外面タタキ(3本)、内面ナデ。	外 淡茶褐色 内 淡灰茶	3mm以下の長石・雲母・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
32 一二八	同上 SD13	口径 16.6 器高 7.7 底径 3.0	半球形の杯体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出気味のやや上げ底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラミガキ、内面ナデ。	淡灰褐色～暗灰色	3mm以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
33 一二八	同上 SD13	口径 8.6 器高 6.1 底径 2.7	やや深い半球形の杯体部からそのまま口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出しない平底。 外面摩耗の為調整不明瞭、内面ナデ。	淡茶灰色	3mm以下の長石・雲母・赤褐色酸化粒・石英等の砂粒を少量含む。	良好	完形。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
34 一二八	高杯 (弥生式土器) SD13	底径 14.3	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びる柱状部から屈曲し、外下方へ開く裾部に至る。端部は丸い。裾部上位に四方孔を有する。 柱状部外面ヘラ削りによる面とり、他はナデ。	外 乳茶橙色 内 明茶褐色	3mm以下の長石・赤褐色酸化粒・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
35 SD30	甕 (七師器)	口径 19.8	口縁部は上外方へ伸び、端部は内方に肥厚し、内傾する面をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡橙色	2mm以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
36 SD30	杯蓋 (須恵器)	口径 12.2 器高 4.4 稜径 12.0	やや高く丸みをもつ天井部から外下方へ伸び、稜に至る。稜は水平に伸び、鈍く尖る。口縁部は下方へ伸び、端部は内傾して凹面をもつ。 天井部外面3/5回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡青灰色	1mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
37 一二八 SD30	坏上	口径 12.1 器高 5.0 稜径 12.4	やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ伸び、稜に至る。稜は水平に伸び、鈍く尖る。口縁部は下方へ下り、端部は下に面をもつ。 天井部外面約1/3 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	2mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	不良	完形。
38 一二八 SD38	瓶 (須恵器)	円孔 1.2	偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。底部は丸底。端部は欠損。口縁部外面に1帯5本の波状文が3帯と体部外面中位に1帯6本の波状文が巡り、体部中央には円孔1つが穿かれている。 内外面回転ナデ。	灰色	精良。	良好	完形。 内外面に釉付着。 底面にヘラ記号有。
39 河川1	壺 (土師器)	口径 12.8	口縁部は斜上方へ伸び、端部は丸い。口縁部下位以下は欠損。 外面ナデ、内面ハケナデ（7本）後放射状暗文。	乳茶灰色	1mm以下の雲母・長石・赤褐色酸化粒等の砂粒を多く含む。	良好	
40 河川1	同上	口径 13.2	口縁部は上方へ伸びた後屈曲して外上方へ内湾気味に伸びる。端部は上につまみ出す。体部は欠損。 外面上位ヘラミガキ、内面放射状暗文、内外面下位ヨコナデ。	明橙茶色	0.5mm以下の砂粒を微量含む。	良好	
41 一二八 河川1	同上	口径 15.4	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。体部内面に5本の接合痕を有する。 口縁部外面ハケナデ後ヨコナデ、内面ハケナデ（6本）、頸部内面指ナデ、体部内外面ハケナデ（8本）。	淡橙色	3mm以下の砂粒を少量含む。	やや良	
42 河川1	同上	口径 11.0	口縁部は上外方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 外面ヨコナデ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後放射状暗文。	淡灰褐色	0.5mm以下の雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
43 河川1	同上	口径 13.4	口縁部は上外方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後放射状暗文。	淡灰褐色	0.5mm以下の雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
44 河川1	同上	口径 11.4	口縁部は上外方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	明茶灰色	0.5mm以下の長石等の砂粒を微量含む。	良好	
45 河川1	小型壺 (土師器)	口径 6.5	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 外面ハケナデ後ヨコナデ、内面ヨコナデ。	茶褐色	3mm以下のチャート・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
46	小型丸底壺 (土師器) 河川1	口径 10.8	口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(8本)、内面ヘラ削り。	淡赤褐色	3mm以下のチャート等の砂粒を多量に含む。	良好	
47 一二八	同上 河川1	口径 8.0 器高 7.8 最大径 9.1	球形の体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラ削り。	淡灰茶色	0.5mm以下の石英・長石等の砂粒を少量含む。	良好	完形。 体部内面に炭化物付着。
48 河川1	同上	口径 7.1 最大径 10.6	やや偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。体部内面中位に1本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(7本)、内面上位指ナデ、下位ヘラ削り。	乳褐灰色	2mm以下の石英・雲母等の砂粒を多量に含む。	良	
49 河川1	壺 (土師器)	口径 19.0	口縁部は上外方へ伸びた後外上方へ外反気味に伸び、端部は上につまみ、外傾する門面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面下位ハケナデ、他はヨコナデ。	淡灰色	4mm以下の石英・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
50 一二八 河川1	同上	口径 24.4	口縁部は上外方へ伸びた後屈曲して外方へ伸び、端部は肥厚し、外傾する面をもつ。体部は欠損。 端部外面ヨコナデ、口縁部外面下位ハケナデ(8本)後放射状暗文、他はヨコナデ後放射状暗文。	淡茶褐色	2mm以下の長石・雲母・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
51 河川1	同上	口径 23.0	口縁部は外方へ伸びた後屈曲して上外方へ外反して伸び、端部は外に面をもつ。口縁部下位以下は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡茶色	3mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
52 河川1	同上	口径 17.8	口縁部は外上方へ伸びた後屈曲して上方へ外反して伸び、端部は丸い。口縁部下位以下は欠損。 内外面ヨコナデ。	乳茶灰色	2mm以下の長石・雲母・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
53 河川1	同上	底径 4.8	体部は斜上方へ伸びる。底部は突出しない平底。口縁部・体部は欠損。 体部外面ヘラミガキ、底部外面ナデ、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	3mm以下のチャート・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
54 河川1	壺 (土師器)	口径 12.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。口縁部内面に2本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	乳茶褐色	0.5mm以下の砂粒を微量含む。	良好	
55 河川1	同上	口径 12.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡茶灰色	2mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
56 河川1	同上	口径 15.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ(4本)、体部内面ヘラ削り。	暗灰褐色	5mm以下の雲母・長石・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
57	甕 (土師器) 河川1	口径 19.6	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	0.5 mm以下の雲母・長石等の砂粒を少量含む。	良好	体部内面に煤付着。
58	同上 河川1	口径 17.2	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡茶褐色	3 mm以下の角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
59	同上 河川1	口径 17.4	口縁部は外上方へ外反気味に伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	茶褐色	1 mm以下の角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
60	同上 河川1	口径 16.2	口縁部は上外方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡茶褐色	2 mm以下の角閃石・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
61	同上 河川1	口径 14.8	口縁部は上外方へ伸び、端部は内方に肥厚し、内傾する面をもつ。体部は欠損。 外面ヨコナデ、内面ハケナデ（5本）。	乳茶色	1 mm以下の角閃石・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
62	同上 河川1	口径 15.0	口縁部は上外方へ伸び、端部は内方に肥厚し、内傾する面をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡灰色	0.2 mm以下の石英・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	外面に煤付着。
63	同上 河川1	口径 16.6	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、内傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヨコナデ後ハケナデ、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	2 mm以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
64	同上 河川1	口径 16.4	口縁部は上外方へ伸び、端部は外傾する凹面をもつ。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	暗灰褐色	2 mm以下の雲母・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
65	同上 河川1	口径 15.2	口縁部は上外方へ伸び、端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡灰褐色	2 mm以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	外面に煤付着。
66	同上 河川1	口径 21.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外傾する凹面をもつ。体部は欠損。東部瀬戸内系の特徴をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（10本）、内面指ナデ。	暗赤褐色	1 mm以下の雲母・チャート等の砂粒を少量含む。	良好	
67	同上 河川1	口径 10.4	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 外面摩耗の為調整不明瞭、口縁部内面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	乳茶灰色	1.5 mm以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良	
68 一二九	鉢 (土師器) 河川1	口径 16.4 器高 7.0	半球形の底体部から屈曲し、外上方へ短く伸びた後屈曲して上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底体部内外面ヘラミガキ。	淡赤褐色	1 mm以下のチャート等の砂粒を多量に含む。	良好	底部外面に煤付着。

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
69 一二九	器台 (土師器) 河川1	底径 11.4	杯部は欠損。脚部は下外方へ外反気味に開く。端部は丸い。脚部中位に三方孔を有する。 外面ヘラミガキ、内面ナデ。	淡茶褐色	3mm以下のチャート・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
70 一二九	高杯 (土師器) 河川1	底径 14.4	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びる柱状部から屈曲し、外下方へ開く裾部に至る。端部は丸い。裾部中位に四方孔と1本の接合痕を有する。 外面ヘラミガキ、柱状部内面くりぬき、裾部内面ハケナデ（9本）。	乳茶灰色	1mm以下の砂粒を多量に含む。	良好	
71 一二九	同上 河川1	底径 11.4	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びる柱状部から屈曲し、外下方へ外反して開く裾部に至る。端部は面をもつ。柱状部外面ヘラ削りによる面とり、内面しぼり目、裾部内外面摩耗の為調整不明瞭。	淡茶褐色	1mm以下のチャート・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
72 一二九	同上 河川1	底径 11.2	杯部は欠損。脚部は下外方へ外反して伸びる柱状部から屈曲し、外下方へ外反して開く裾部に至る。端部は丸い。 柱状部外面ヘラによる面とり、内面しぼり目、裾部外面ナデ、内面ヨコナデ。	淡茶褐色	0.5mm以下のチャート・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
74 一二九	壺 (土師器) 包含層	口径 17.7	口縁部は上外方へ伸びた後屈曲して外上方へ外反気味に伸び、端部は下方に垂れ下がり外に面をもつ。端面に8本の沈線が巡り、円形浮文が付く。内面に1帯4本の波状文が巡る。体部以下は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡茶色	2mm以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
75	同上 包含層		口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は下方に垂れ下がり、外に面をもつ。端部外面には3本の波状文が巡り、円形浮文が付く。口縁部下位以下は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 赤褐色 内 淡橙色	3mm以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
76	同上 包含層	口径 23.0	口縁部は外上方へ外反して伸びた後屈曲し、上外方へ外反気味に伸び、端部は外に面をもつ。端面には1帯4本の波状文と円形浮文が付く。口縁部内外面には内2本・外1本の波状文が巡る。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	茶褐色	3mm以下の長石・石英・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
77	同上 包含層	口径 9.7	内上方へ内湾して伸びる体部から緩やかに屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。体部は欠損。 内外面ナデ。	淡茶褐色	2mm以下の雲母・角閃石・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	
78	同上 包含層	口径 13.0	口縁部は上外方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヘラミガキ後放射状暗文。	暗橙色	1mm以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
79 一二九	壺 (弥生式土器) 包含層	底径 5.1	体部中位以上は欠損。体部は上外方へ伸びる。底部は突出しない平底。 外面ヘラミガキ、内面ナデ。	淡茶褐色	2mm以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	底部内面に黒斑有。
80 一二九	甕 (土師器) 包含層	口径 19.8	上位が半球形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は下方に肥厚し、外傾する面をもつ。体部下位以下は欠損。 口縁部外面ハケナデ（5本）、内面ハケナデ後ヨコナデ、体部外面タタキ（2本）、内面ナデ（一部ハケナデ有り）。	淡橙色	2mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
81	甕 (弥生式土器) 包含層	口径 12.2	内上方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	淡茶橙色	2mm以下の長石・雲母・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
82 一三〇	同上 包含層	口径 14.9	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部下位は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面摩耗の為調整不明瞭。	明茶橙色	3mm以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
83	同上 包含層	口径 17.0	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は内外方に肥厚し、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ。	淡茶褐色	3mm以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
84 一三〇	同上 包含層	口径 18.4 器高 21.7 最大径 20.2	楕円形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外傾する面をもつ。底部は突出した窪み底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	外 暗灰褐色 内 淡茶褐色	2mm以下の長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良好	体部外面中位以下に煤付着。 体部内面中位以下に黒斑有。
85 一三〇	同上 包含層	口径 14.3 最大径 17.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。頸部内面に1本と体部内外面下位に1本ずつ接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	外 淡茶色 内 明茶色	5.5mm以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
86	同上 包含層	口径 15.2	上内方へ伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ。	淡茶橙色	3mm以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む	良好	
87	甕 (土師器) 包含層	口径 14.8	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	外 淡茶色 内 淡灰褐色	3mm以下の雲母・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
88	同上 包含層	口径 14.0	上内方へ伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はやや上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	外 淡茶褐色 内 乳灰茶色	3mm以下の長石・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
89	同上 包含層	口径 13.2	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、内傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(6本)、内面ナデ。	乳茶褐色	3mm以下の長石・石英・赤褐色酸化粒・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
90	同上 包含層	口径 12.8	上内方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(5本)、内面ヘラ削り。	外 淡茶褐色 内 淡茶色	3mm以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
91	同上 包含層	底径 2.6	体部上位以上は欠損。体部は上外方へ内湾して伸びる。底部はやや突出した平底。 体部外面タタキ(3本)、底部外面ヘラ削り、内面ナデ。	外 淡茶灰色 内 淡灰褐色	4mm以下の長石・雲母・石英・赤褐色酸化粒等の砂粒を多量に含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
92 一三〇	器台 (土師器) 包含層	底径 12.0	杯部は欠損。脚部は下外方へ開く。端部は丸い。脚部上位に四方孔を有する。 脚部上位外面ヘラ削り。その他は摩耗の為調整不明瞭。	淡茶褐色	2㎜以下の長石・赤褐色酸化粒等の砂粒を少量含む。	良好	
93	有孔鉢 (弥生式土器) 包含層	底径 4.1	杯部中位以上は欠損。体部は上外方へ伸びる。底部は突出しない平底。底面中央には円孔が穿かれている。 外面タタキ（3本）、内面ヘラナデ。	茶褐色	4㎜以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良	
94	同上 包含層	底径 4.0	杯部中位以上は欠損。体部は上外方へ内湾して伸びる。底部は突出した平底。底面中央には円孔が穿かれている。 外面タタキ（3本）、内面ナデ（一部タタキ有り）。	外 淡茶色 内 淡赤褐色	3㎜以下の長石・雲母・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
95	高杯 (土師器) 包含層	口径 24.0	平らな杯底部から屈曲し、上外方へ大きく外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外側に面をもつ。端面には4本の沈線が巡り、円形浮文が付く。杯部外面下位に1帯2本の波状文が巡る。脚部は欠損。 杯部外面ハケナデ（4本）後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ。	外 淡茶色～淡茶灰色 内 淡茶褐色	5㎜以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
96 一三〇	同上 包含層	口径 18.5 器高 12.7 底径 10.7	浅い半球形の杯体部からそのまま口縁部に至る。端部は丸い。脚部は下外方へ伸びる柱状部から屈曲し、外下方へ開く裾部に至る。端部は丸い。 杯部外面ヨコナデ、内面ハケナデ、柱状部外面ヘラによる面とり、内面しぼり目、裾部外面ナデ、内面指ナデ。	淡茶褐色	1㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
97	同上 包含層	口径 17.0	やや平坦な杯底部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至り、端部付近で外へ伸びる。端部は丸い。脚部は欠損。 杯部内外面ハケナデ（8本）後ナデ。	淡灰褐色	3㎜以下のチャート等の砂粒を多量に含む。	良好	
98 一三〇	同上 包含層	底径 14.0	脚部上位以上は欠損。脚部は下外方へ外反して開く。端部は外傾する面をもつ。脚部下位の外面には鋸手文が施され、円孔（四方）が穿かれている。 内外面ナデ。	淡茶褐色	3㎜以下の雲母・角閃石・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
99 一三〇	同上 包含層	底径 8.8	杯部は欠損。脚部は下外方へ外反して伸びる柱状部から外下方へ外反気味に開く裾部に至る。端部は丸い。 外面摩耗の為調整不明瞭、柱状部内面くりぬき、裾部内面ナデ。	淡赤褐色	0.5㎜以下のチャート等の砂粒を少量含む。	良	
100	杯 (土師器) 包含層	口径 8.7	上方へ内湾気味に伸びる体部から上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 体部内面ナデ、他はヨコナデ。	暗橙色	1㎜以下の砂粒を多量に含む。	良好	
101 一三〇	杯身 (須恵器) 包含層	口径 10.7 器高 5.4 受部径 13.0 立ち上がり高 1.9	深く丸みをもつ底体部から上外方へ伸び、受部に至る。受部は水平に伸び、丸く終わる。立ち上がりは上内方へ外反して伸びる。端部は丸い。底体部外面3/7 回転ヘラ削り、底体 底体部外面3/7回転ヘラ削り、底体部内面2/7 不定方向のナデ、他は回転ナデ。	灰褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	不良。	ロクロ左方向。
102	同上 包含層	口径 10.2 器高 3.6	平らな底体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。 外面約1/4 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	明青灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。

遺物番号 図版番号	種　　類	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼成	備　考
103	高杯 (須恵器) 包含層	口　径　15.4	上外方へ内湾して伸びる体部から、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。杯底部以下は欠損。杯部外面に２つの稜があり、その間に１帯６本の波状文を施す。端部内面に１本の沈線が巡る。 内外面回転ナデ。	乳灰褐色	１mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
104 一三一	同上 包含層	口　径　10.2 受部径　13.7 立ち上がり高　2.1	やや深く平らな杯底部から上外方へ内湾して伸び、受部に至る。受部は水平に伸び、鋭く尖る。立ち上がりは上内方へ外反して伸びる。端部は外方に肥厚し、上に面をもつ。脚部は下外方へ伸びるが、脚部下位以下は欠損。 底体部外面約1/2 回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗青灰色	３mm以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良好	ロクロ左方向。
105 一三一	壺 (須恵器) 包含層	最大径　10.1	口縁部は欠損。体部は偏平な球形である。底部は丸底。体部外面中位に１帯７本の波状文が巡り、体部中央には円孔１個が穿かれている。 外面回転ナデ、内面不定方向のナデ。	黒灰色～乳灰褐色	１mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	外面中位に自然釉付着。ロクロ方向不明。
106 一三一	同上 包含層	最大径　10.3	口縁部は欠損。偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる。底部は丸底。体部中位には円孔が穿かれている。 外面回転ナデ、内面不定方向のナデ。	淡灰色	１mm以下の長石等の砂粒を微量含む。	良好	外面灰かぶり。 ロクロ方向不明。
107 一三一	壺 (須恵器) 包含層	最大径　14.5	口縁部は欠損。偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。底部は丸底。体部外面上位に２条の沈線と１帯７本の波状文が巡る。 内外面回転ナデ。	乳灰色	２mm以下の長石等の砂粒を微量含む。	良好	外面・体部内面上中位に釉付着。ロクロ方向不明。
108 一三一	同上 包含層	最大径　13.6	口縁部は欠損。体部は偏平な球形である。底部はやや平らな丸底。 体部外面カキ目、内面・底部外面回転ナデ、内面不定方向のナデ。	淡灰色	４mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
109 一三一	大型器台 (須恵器) 包含層	底　径　24.4	杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びる。端部は丸い。脚部外面に５本の稜が巡る。脚部外面上位に１帯10本の波状文が２帯巡る。脚部中位に方形スカシを有する。 内外面回転ナデ。	淡灰色	３mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
110 一三一	甕 (須恵器) 包含層	口　径　16.2	内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。口縁部外面上位に２本の稜があり、その間に１帯７本と５本の波状文が巡る。体部は欠損。 内外面回転ナデ。	暗青灰色	0.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	体部外面灰かぶり。 ロクロ左方向。
111	同上 包含層	口　径　12.0	内上方へ伸びる体部から緩やかに屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外側に面をもつ。体部は欠損。 内外面回転ナデ。	暗灰褐色	精良。	良好	ロクロ方向不明。
112 一三一	同上 包含層	口　径　19.6	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上下に肥厚し、外に凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ、体部内外面不定方向のナデ。	暗青灰色	２mm以下の砂粒を多量に含む。	良好	外面・口縁部内面灰かぶり。 ロクロ方向不明。
113 一三一	小皿 (瓦器) 包含層	口　径　10.4	浅い半球形の杯部で、口縁部端部は丸い。 内外面ヨコナデ。	淡茶褐色	0.5 mm以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良	

第６章　第16次調査

第１節　調査の概要

第16次調査は、青山町４丁目・５丁目、南山本町８丁目に所在する区画道路と公園用地内の発掘調査である（第257図）。

調査区は、区画街路予定地３箇所（７号線２箇所・34号線１箇所）と公園予定地４箇所（１号公園３箇所・４号公園１箇所）の計７箇所である。これらの調査区は北から第１調査区～第７調査区と付称して調査を実施した。総調査面積は約500㎡を測る。

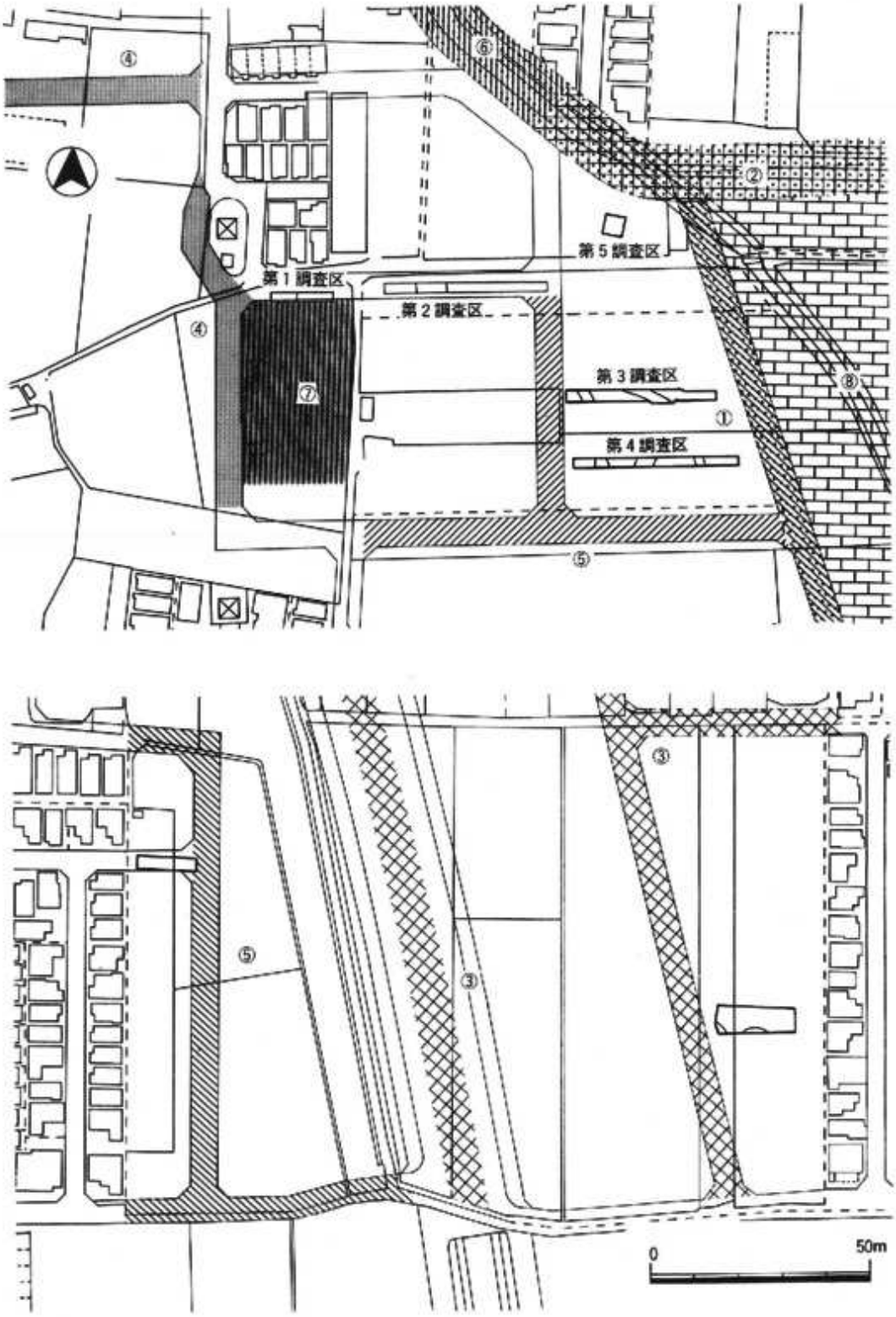
掘削に際しては、既往調査の成果を参照にして、現地表下0.3～1.6ｍまでを機械で掘削し、以下、0.4～0.5ｍまでの土層を人力で掘削・精査した。

調査区の区割り設定は前章でも延べているように、当区画整理区域内の南部に基準点があり、この点から東西・南北軸を設定している。この区画線から調査区へ移動し、発掘調査を実施した。なお、区割りの詳細については第１章　調査の概要を参照されたい。

調査の結果、弥生時代後期・古墳時代前期（庄内式新相～布留式古相）・鎌倉時代～室町時代・江戸時代の概ね４時期の遺構を検出した。遺物は、弥生時代後期から江戸時代に至る土器・瓦・木製品等である。出土量はコンテナ箱にして約６箱分を数える。以下、各調査区ごとに記す。

凡　　例

① 第２次調査地（昭和58年度）
② 第５次調査地（昭和59年度）
③ 第６次調査地（昭和60年度）
④ 第８次調査地（昭和61年度）
⑤ 第10次調査地（昭和62年度）
⑥ 第11次調査地（昭和62年度）
⑦ 第18次調査地（平成元年度）
⑧ 大阪府教育委員会（昭和58年度）



第257図　遺構配置図

第2節　第1調査区

区画整理区域内の北部付近に設定した東西方向に長い調査区（14×2.5m）である。調査区の面積は約35㎡を測る。

Ⅰ　基本層序

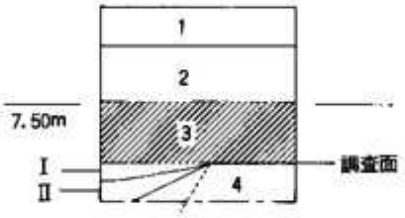
当調査区で調査した土層内から普遍的に存在する6層を摘出して基本層序とした（第258図）。現地表面は、標高8.0mを測る。以下、各土層について記す。

第1層　耕土：層厚10～15㎝。調査前までの耕作土である。

第2層　暗灰褐色粗砂混粘質土：層厚15～20㎝。床土である。

第3層　褐灰色細砂混粘質土：層厚15～20㎝。古墳時代～近世に至る遺物の小片がごく少量含まれている。

第4層　青灰色細砂混粘土：層厚20㎝以上。この土層の上面は標高7.2mを測り、古墳時代中期に比定される河川、中世～近世に至る溝が切り込まれており、この上面を調査面とした。



第258図　基本層序柱状図（S＝1／40）

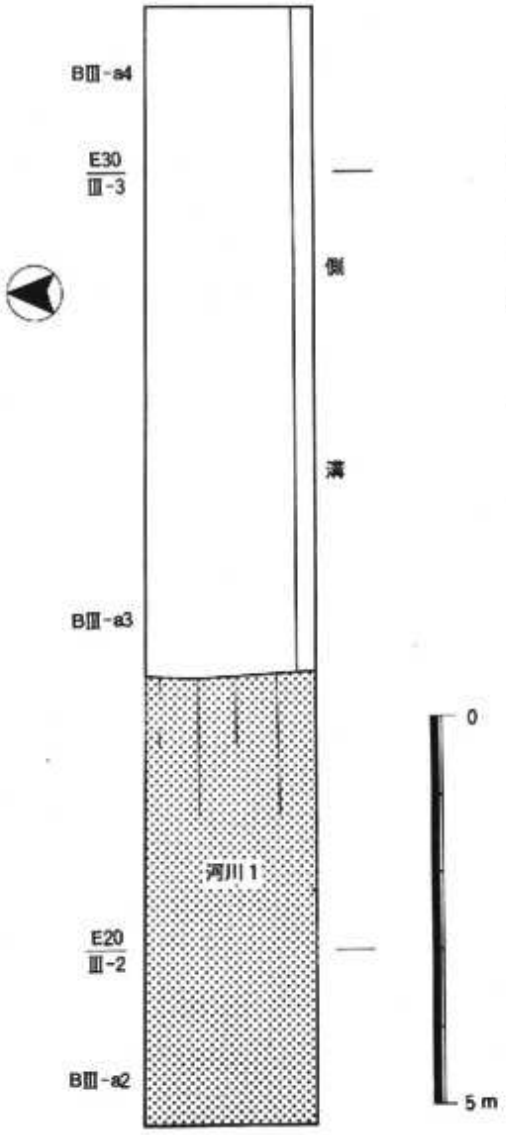
調査区の西半分には、第4層から切り込まれているⅠ：褐橙青色粗砂混粘質土とⅡ：灰青褐色粗砂混粘質土が西側へ行くに従い厚く堆積する。このⅠとⅡの土層内には江戸時代に比定される遺物が含まれている。また、その下層では、Ⅱの土層によって削平されたⅢ：灰褐茶色細砂が堆積する。この土層は古墳時代中期に比定される河川の埋没土層と考えられ、西側に行くに従い深くなる。

Ⅱ　検出遺構と出土遺物

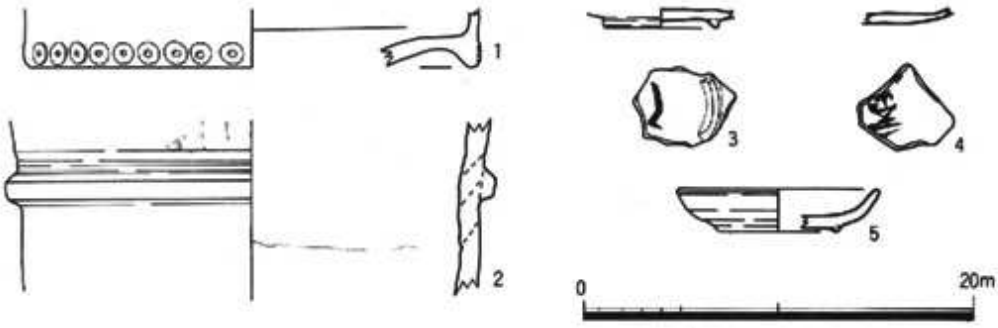
第4層上面を調査面とした。その結果、古墳時代中期に比定される自然河川1条（河川1）を検出した（第259図）。この河川1の内部堆積土からは砂層を基調としており、人力による掘削を実施した結果、地下水が高く、壁面の崩壊が著しく危険であるため、調査を中止した。河川1の規模は検出部で、約7m以上を測る。遺物は、上層で古墳時代中期に比定される土器片がごく少量出土しているが、詳細なことは不明である。

1）遺構に伴わない出土遺物

第3層・第4層内から出土している。出土量は、コンテナ箱にして約1/2箱程度である。時期は古墳時代前期～近世に至る遺物である。以下、図示できたものについて記す（第260図）。第4層内から出土した庄内式古相に比定される壺（1）、第3層内から出土した古墳時代中期（5世紀後半）に比定される円筒埴輪（2）、平安時代前期に比定される黒色土器の椀（3・4）、鎌倉時代に比定される美濃焼の鉢（5）である。黒色土器の椀の底面には墨書が書かれている。解読は不明である。



第259図　第1調査区遺構平面図



第260図　遺構に伴わない出土遺物実測図

第３節　第２調査区

第１調査区から東部約５ｍに設定した東西方向の調査区（38×2.5ｍ）である。調査面積は約95㎡を測る。

Ⅰ　基本層序

当調査区の調査で存在する土層内から普遍的にみられる８層を摘出して基本層序とした（第261図）。現地表面は、標高8.5ｍを測る。以下、各層について記す。

第１層　盛土：層厚70㎝。近年に整地した土層で、上部は調査前まで畑である。

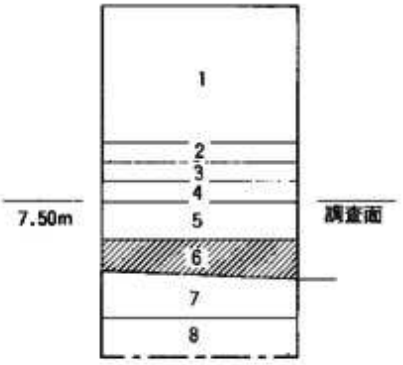
第２層　旧耕土：層厚10㎝。整地されるまでの水田土層である。

第３層　茶褐色粘質土：層厚10～15㎝。床土である。

第４層　暗青緑色粗砂混粘質土：層厚15～20㎝。近世の遺物の小片がごく少量含まれる。

第５層　褐茶灰色粗砂混粘質土：層厚15～20㎝。古墳時代～江戸時代に至る遺物の小片がごく少量含まれる。

第６層　褐橙青色粗砂混粘質土：層厚10～20㎝。西側では粗砂が多く含まれ、古墳時代～中世に至る遺物の小片をごく少量含む。



第261図　基本層序柱状図（S＝1／40）

第７層　茶褐色粘質土：層厚15～20㎝。酸化鉄が多く含まれる。この上面から遺構が切り込まれており、調査面とした。上面は標高7.0～7.2ｍを測り、西側に行くに従い低くなっている。

第８層　青灰色細砂混粘質土：層厚20㎝以上。粘性がある。

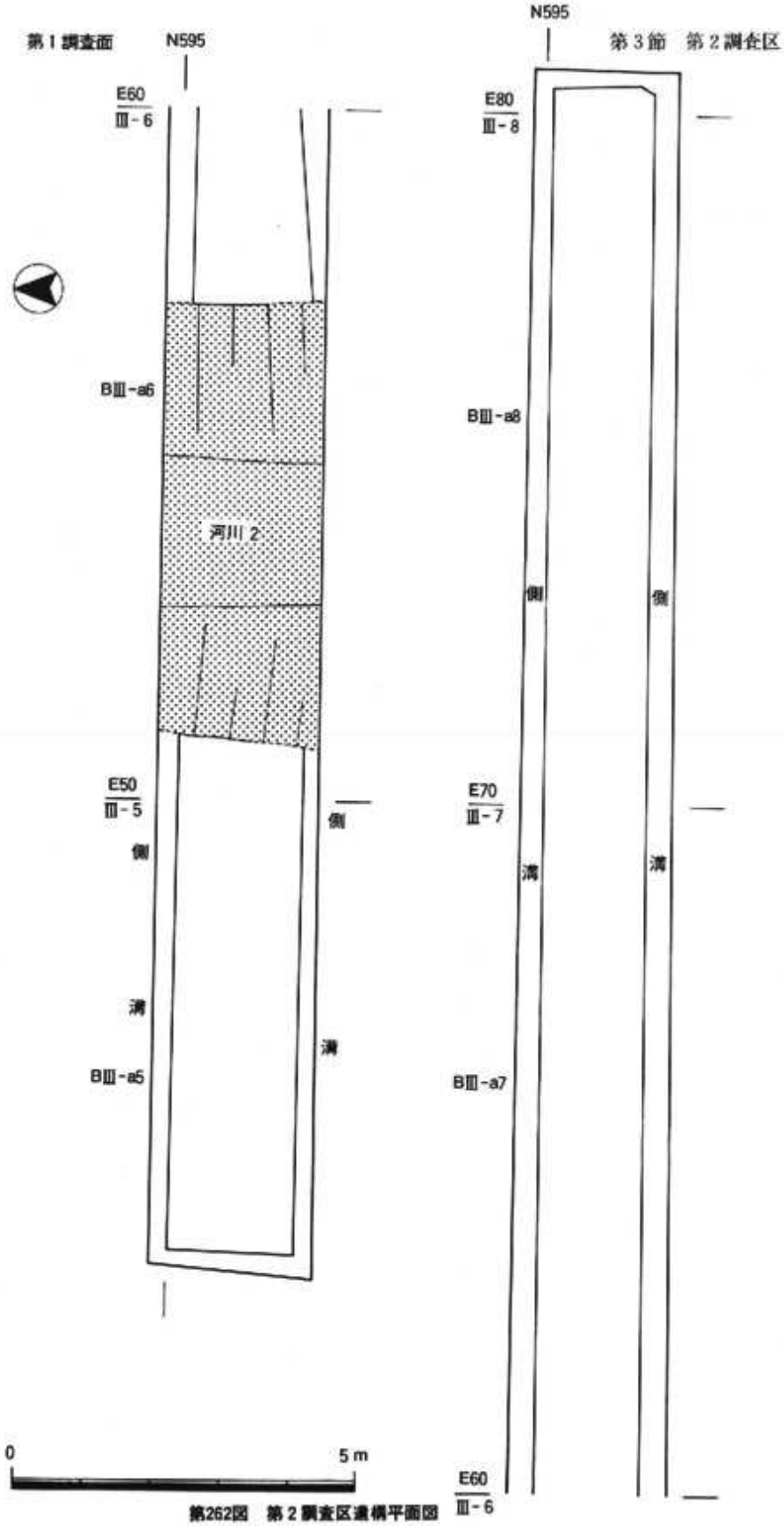
Ⅱ　検出遺構・出土遺物

この調査区では、第７層上面を調査面とした。その結果、古墳時代前期（庄内式新相～布留式古相）に比定される自然河川１条（河川２）、鎌倉時代Ⅰに比定される溝１条（ＳＤ１）を検出した（第262・263図）。

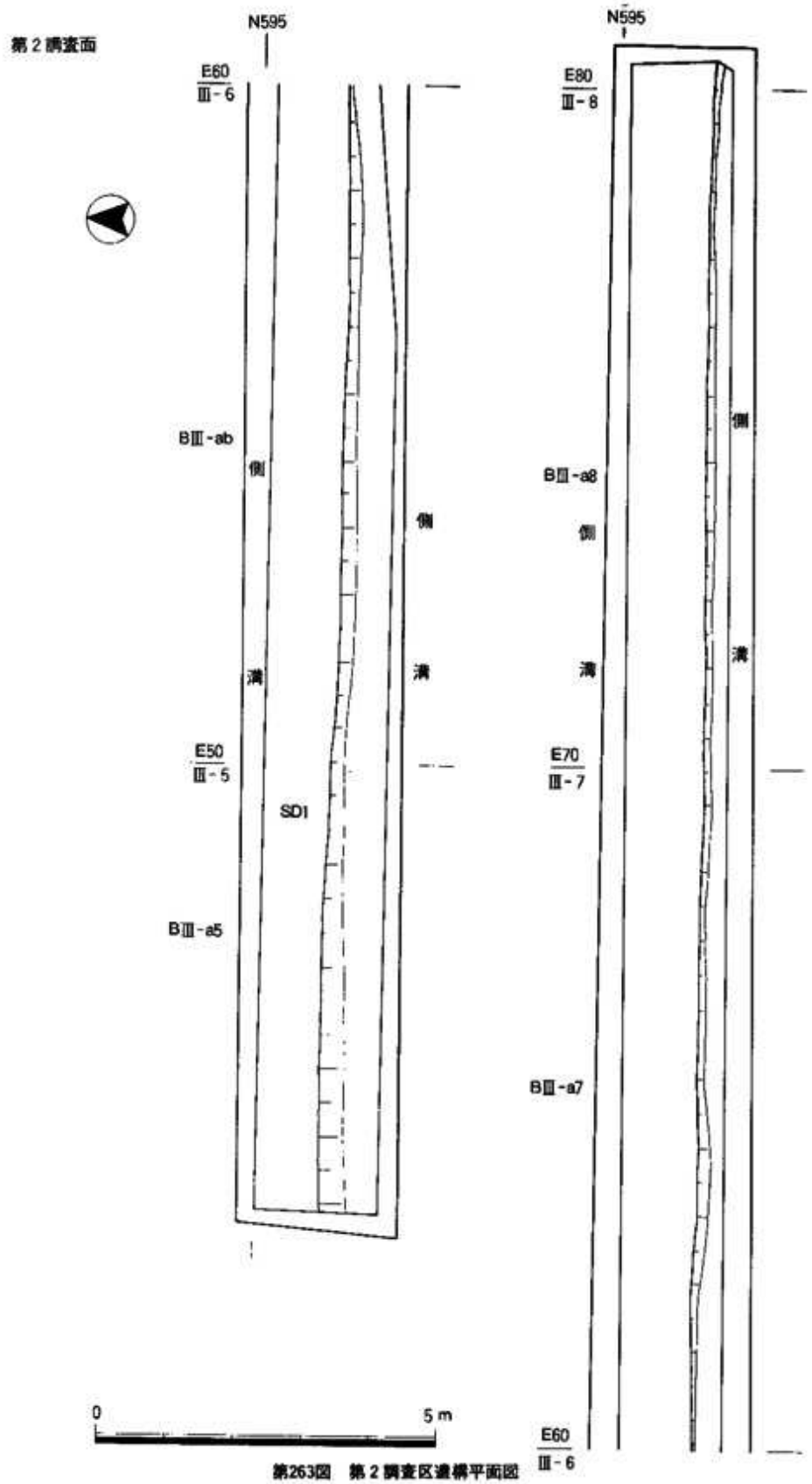
自然河川（河川）

河川２

調査区の西側で検出した。方向は南北方向を示し、幅約５ｍ、深さ80㎝を測る。断面は逆台



第262図　第2調査区遺構平面図



第263図　第２調査区遺構平面図

形を呈する。堆積土は砂層を基調とした土層で、上方から茶灰色細砂・茶灰色細砂混粘質土である。北部の河川底には丸木杭1本（径10cm、長さ60cm）が打ち込まれていた。遺物は、内部から古墳時代前期に比定される土師器の壺・甕などの小片と自然木が少量出土している。

溝（SD）

SD1

調査区の南側沿いで検出した。方向は東西方向に伸びる溝で、幅1m、深さ20～25cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は、褐橙青色粗砂混粘質土の1層である。遺物は、内部から古墳時代～鎌倉時代に至る土師器・須恵器などの小片がごく少量出土している。

第4節　第3調査区

第2調査区から南東部約40mに設定した東西方向に長い調査区（35×2.5m）である。調査面積は、約87.5㎡を測る。

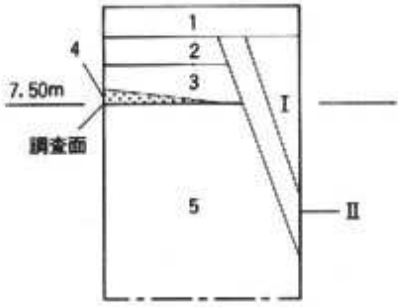
Ⅰ　基本層序

当調査区で調査した土層内から普遍的にみられる5層を摘出して基本層序とした（第264図）。現地表面は標高8.0mを測る。以下、各土層について記す。

第1層　耕土：層厚15cm。調査前までの耕作土である。

第2層　暗灰黄色粗砂混粘質土：層厚10～15cm。床土である。この上面から室町時代と江戸時代の遺構が切り込まれている。

第3層　茶褐色粘質土：層厚10～20cm。古墳時代～鎌倉時代に至る遺物の小片がごく少量含まれる。



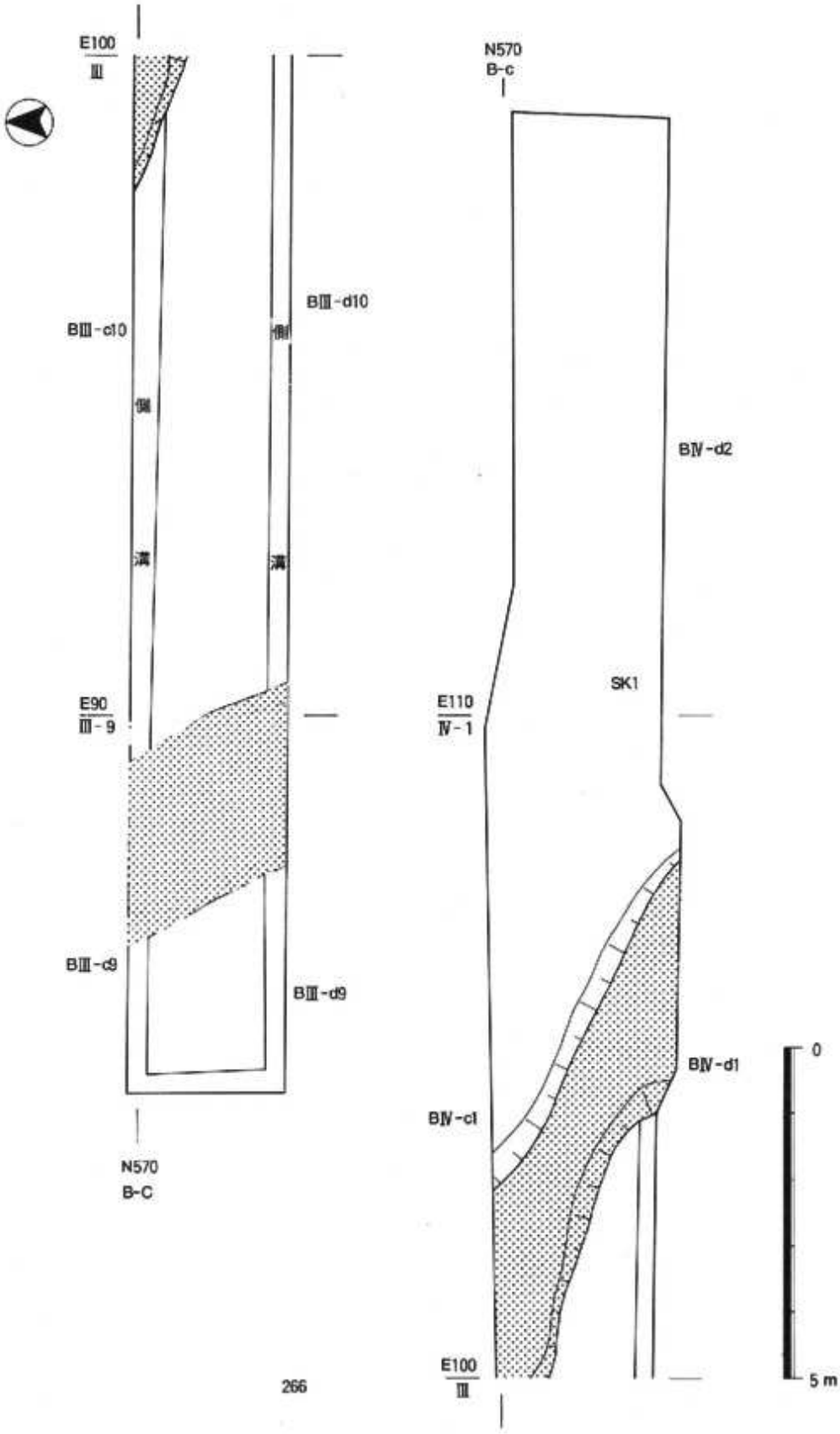
第264図　基本層序柱状図（S＝1／40）

第4層　暗茶褐色粘質土：層厚0～15cm。古墳時代前期に比定される遺物の小片がごく少量含まれている。この上面では鎌倉時代の溝が切り込まれている。

第5層　茶褐黄色粘質土：層厚1m以上。この上面から古墳時代前期に比定される自然河川が切り込まれており、この上面を調査面とした。標高は7.5mを測る。

Ⅱ　検出遺構・出土遺物

この調査区では、第5層の上面を調査面とした。その結果、古墳時代前期（庄内式新相～布



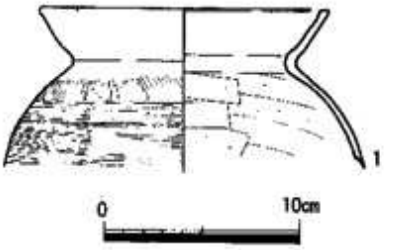
第265図　第3調査区遺構平面図

留式古相）に比定される自然河川1条（河川3）と、第2層上面から切り込む室町時代に比定される自然河川1条（河川4）、江戸時代に比定される土坑1基（ＳＫ１）を検出した（第266図）。

自然河川（河川）

河川3

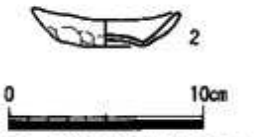
調査区の西部で検出した。方向は南東ー北西方向で、南部に位置する第4調査区でも検出している。規模は検出部で、幅2.7～3.4ｍを測る。断面は半円形を呈する。堆積土は砂層を基調とした土層で、上方から暗褐茶色粗砂混粘質土・茶褐色粘土混粗砂・暗灰青黄色シルト（炭を含む）・灰青色シルト・灰茶色粗砂・青灰色粘土混細砂である。遺物は、内部から布留式古相に比定される布留式甕（1）・高杯などの土器片が少量出土している（第266図）。



第266図　河川3出土遺物実測図

河川4

調査区の中央部で検出した。東部はＳＫ１で切られている。方向は西屑で南東ー北西方向を示し、南北はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅約20ｍ以上、深さ1ｍを測る。断面の形状は不明である。堆積土は、茶灰色細砂である。遺物は、内部から鎌倉時代後期に比定される土師器の小皿（2）などの小片がごく少量出土している（第267図）。



第267図　河川4出土遺物実測図

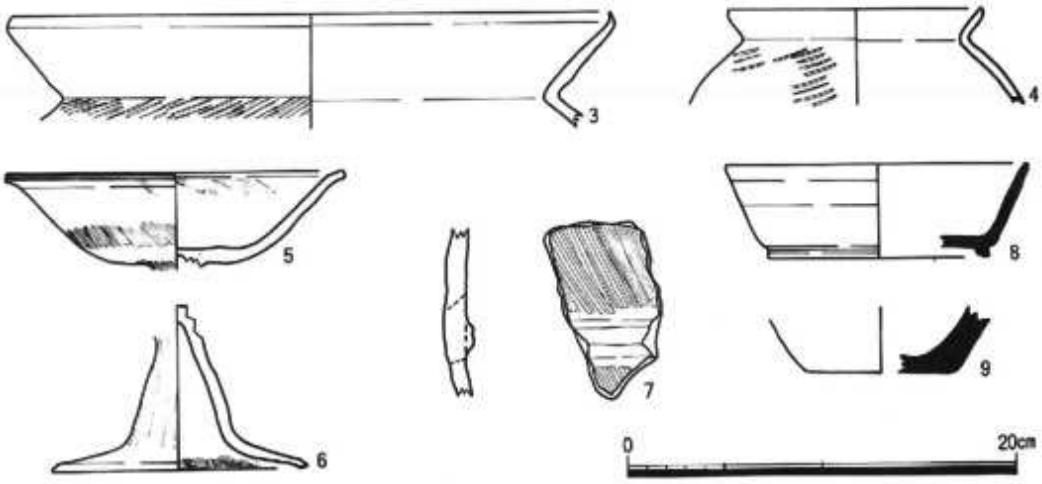
土坑（ＳＫ）

ＳＫ１

河川4を切った状態で検出した大きな土坑状の遺構で、東部・南北部は調査区外に至り、東部に行くに従い深さが増しており、東部の最も深い部分では約1ｍを測る。堆積土は、上方から暗青褐色粘質土・褐茶灰色細砂混粘質土・褐橙青色粗砂混粘質土・灰青緑色粗砂混粘質土の4層で構成している。遺物は、内部から古墳時代～江戸時代に至る土器・瓦器・瓦・磁器などの小片がごく少量出土している。

1）遺構に伴わない出土遺物

第3・4層内から出土している。出土量はコンテナ箱にして約1箱分である。時期は古墳時代～鎌倉時代に至る遺物である。以下、図示できたものについて記す（第268図）。古墳時代前期（庄内式期）に比定される庄内式甕（3）・Ｖ様式系甕（4）、古墳時代中期に比定される土師器の高杯（5・6）、円筒埴輪（7）、古墳時代後期に比定される須恵器の杯身（8）・壺（9）である。



第268図　遺構に伴わない出土遺物実測図

第5節　第4調査区

第3調査区から南部約10mに設定した東西方向に長い調査区（38×2.5m）である。調査面積は約95㎡を測る。

Ⅰ　基本層序

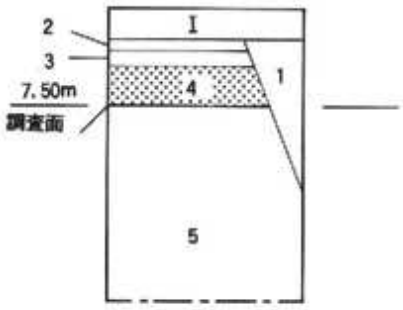
当調査区で調査した土層内に存在する5層を摘出して基本層序とした（第269図）。現地表面は標高8.0mを測る。以下、各層について記す。

第1層　耕土：層厚15㎝。調査前までの耕作土である。

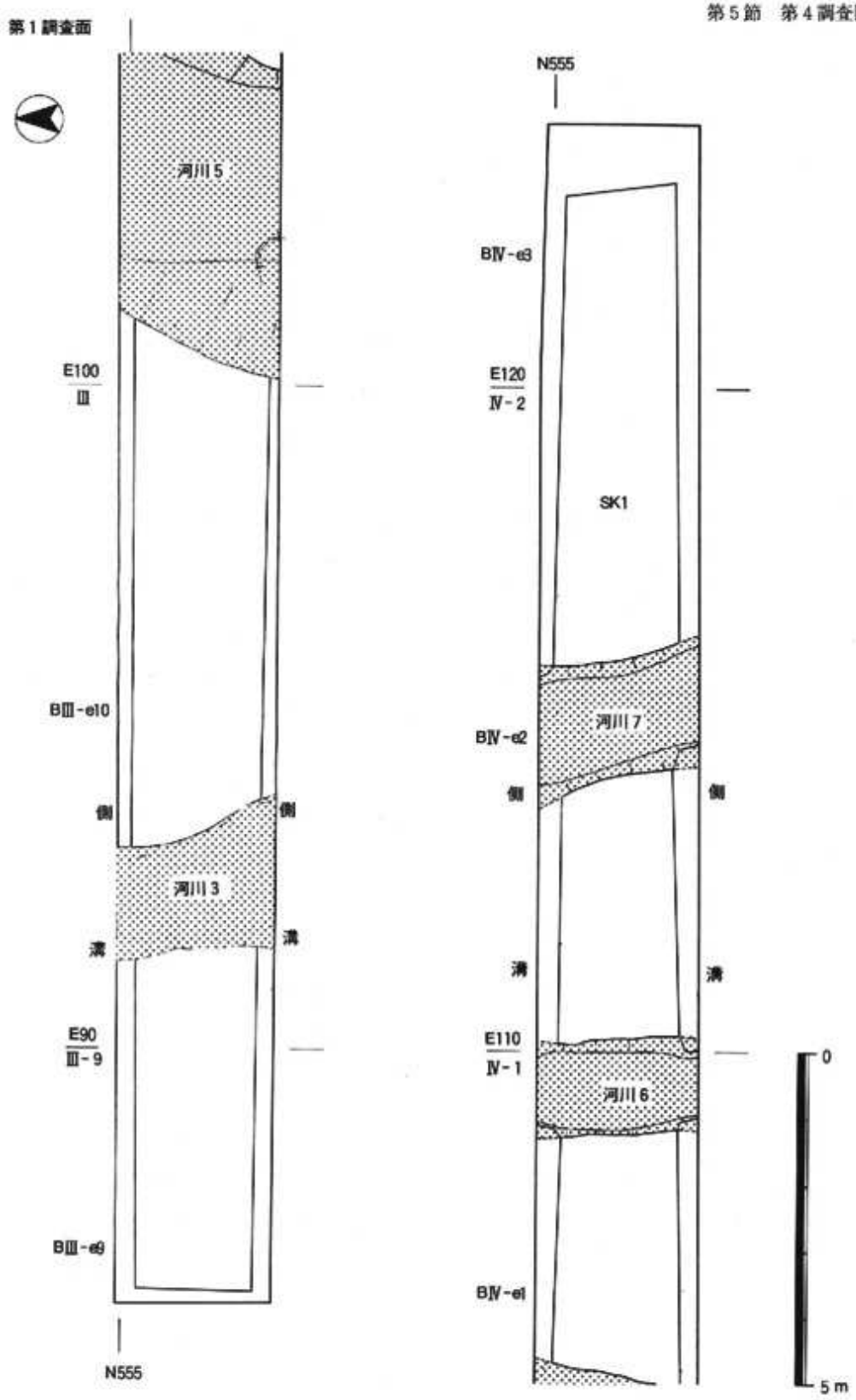
第2層　暗灰黄色粗砂混粘質土：層厚5㎝。床土である。東部ではこの上面から江戸時代に比定される土層（Ⅰ）が切り込まれている。

第3層　茶褐色粘質土：層厚10㎝。古墳時代～鎌倉時代に至る遺物の小片が少量含まれている。

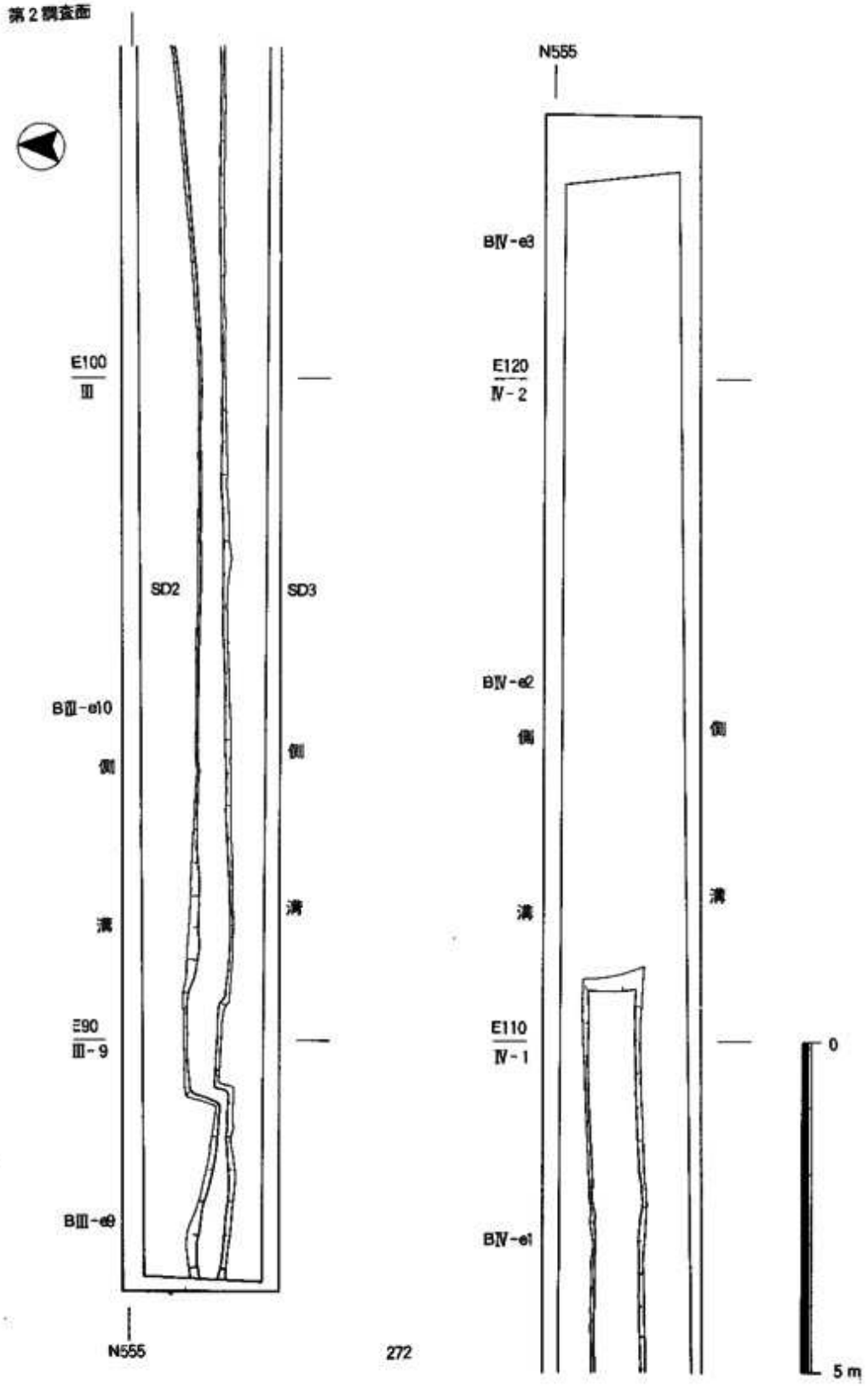
第4層　暗茶褐色粘質土：層厚15～20㎝。古墳時代前期に比定される遺物の小片が少



第269図　基本層序柱状図（S＝1／40）



第270図　第4調査区遺構平面図



第271図　第4調査区遺構平面図

量含まれている。

第5層　茶褐黄色粘質土：層厚1m以上。下部へ行くに従い粘性が強くなり、色調が青味を帯びる。この上面では古墳時代前期の自然河川が切り込まれており、この面を調査面とした。標高は7.5mを測る。

Ⅱ　検出遺構・出土遺物

この調査面では、第5層上面を調査面とした。その結果、古墳時代前期に比定される自然河川4条（河川3・河川5～河川7）と、鎌倉時代に比定される溝2条（SD2・SD3）を検出した（第270・271図）。遺物は、第3層～第5層内で古墳時代～中世に至る土器の小片がごく少量出土している。

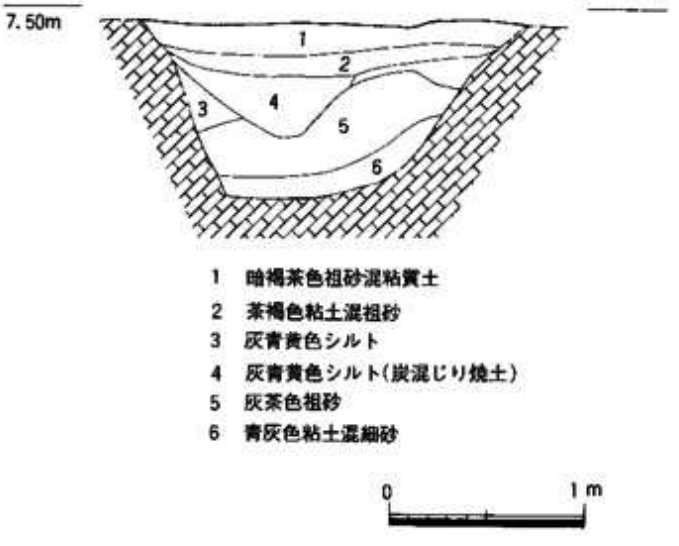
自然河川（河川）

河川3

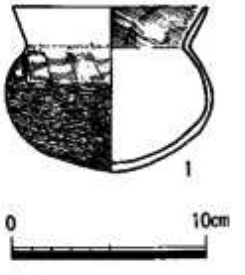
調査区の西部で検出した。方向は南北方向を示し、南北はともに調査区外に至り、北部に位置する第1調査区の河川3に続くものと考えられる。規模は検出部で、幅約1.8m、深さ60cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は砂層を基調とした土層で、上方から灰褐青色砂混粘質土・灰茶青色砂混シルト・灰青褐色細砂混粗砂である（第272図）。遺物は、内部から布留式古相に比定される小型丸底壺（1）・甕・高杯などの小片がごく少量出土している（第273図）。

河川5

調査区の中央部付近で検出した。方向は南北方向を示し、南北はともに調査区外に至る。上面の一部は鎌倉時代の溝（SD2・SD3）で削平されている。規模は検出部で、幅4.2m、深さ1.7mを測る。断面は逆台形

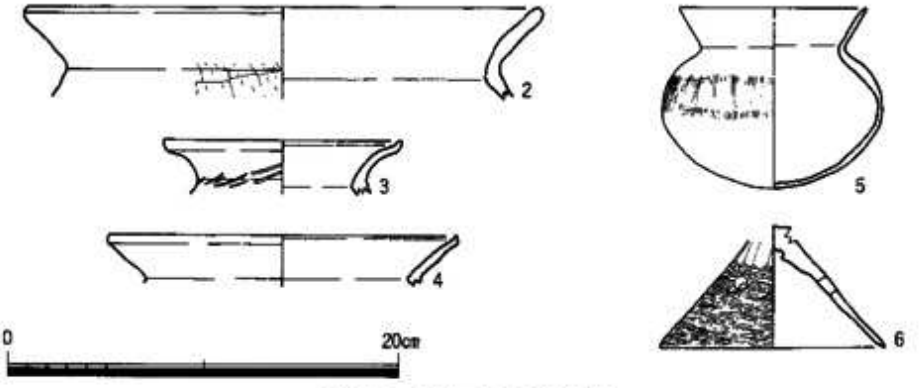


第273図　河川3断面図



第272図　河川3出土遺物実測図

を呈する。堆積土は、上方から暗灰褐色粗砂混粘質土・茶灰色細砂混粘質土・暗灰茶色粗砂混粘質土・茶黄灰色粗砂混細砂・暗灰青色細砂混粘土である。遺物は、内部から古墳時代前期に比定される土師器の壺・甕（2～4）・小型甕（5）・器台（6）・高杯などの小片と自然木が少量出土している（第274図）。



第274図　河川５出土遺物実測図

河川６

河川５から約４ｍ東側で検出した。方向は南北方向を示し、南北はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅2.5ｍ、深さ56cmを測る。断面は半円形を呈する。堆積土は、灰青色粗砂・灰青褐色粗砂混シルト・灰黄茶色粗砂の３層である。遺物は、内部から古墳時代前期に比定される土師器の小片がごく少量出土している。

河川７

河川６から５ｍ東側で検出した。方向は南北方向を示し、南北はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅２ｍ、深さ50cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は、灰青褐色粗砂・灰青褐色粗砂混シルト・灰黄茶色粗砂の３層で構成している。遺物は、内部から布留式古相に比定される土器の小片が少量出土している。

溝（ＳＤ）

ＳＤ２

調査区で検出した東西方向の溝で、東部はＳＫ１によって切られ、西部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅0.8ｍ、深さ20～25cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は、暗茶褐色粘質土の１層である。遺物は、内部から古墳時代～鎌倉時代に至る土器の小片がごく少量出土している。

ＳＤ３

ＳＤ２の南部で検出した溝で、ＳＤ２と平行に伸びる。東部はＳＫ１に切られ、西部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅0.9～1.1ｍ、深さ15～23cmを測る。断面は逆台形を呈する。

堆積土は、暗茶褐色粘質土の1層である。遺物は、古墳時代～鎌倉時代に至る土師器・須恵器などの小片がごく少量出土している。

第6節　第5調査区

第3調査区から北部約40m設定した方形のグリット（一辺4m）である。調査面積は16㎡を測る。

Ⅰ　基本層序

当調査区で調査した土層内から普遍的に見られる6層を摘出して基本層序とした（第275図）。現地表面は、標高9.2mを測る。以下、各土層について記す。

第1層　盛土：層厚1.2m。楠根川の河川堤防のため盛土した土層である。

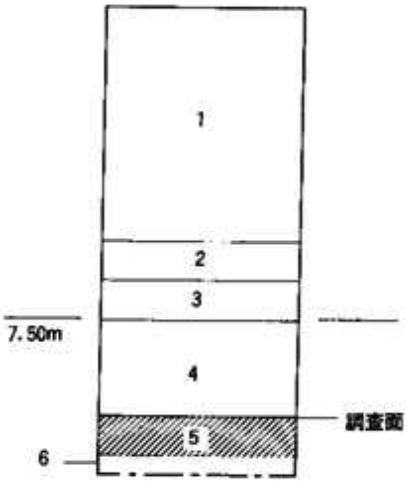
第2層　旧耕土：層厚20cm。近年までの耕作土である。

第3層　暗青緑色粗砂混粘質土：層厚20cm。床土である。

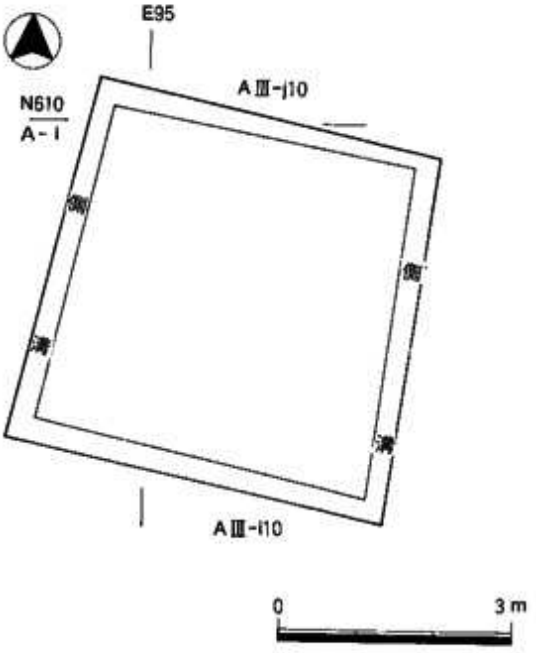
第4層　褐茶灰色細砂混粘質土：層厚50cm。近世に比定される遺物の小片がごく少量含まれる。

第5層　灰青緑色粗砂混粘質土：層厚20cm。この上面を調査面としたが、遺構は確認できなかった。上面の標高は7.0mを測る。

第6層　淡灰褐色細砂：層厚20cm以上。この上面を調査面としたが、この上面は室町時代に比定される自然河川の埋没土層であることが判明した。



第275図　基本層序柱状図（S＝1／40）



第276図　第５調査区遺構平面図

Ⅱ　検出遺構・出土遺物

当調査区では第６層上面を調査面として実施した（第276図）。その結果、調査区全域で砂層の堆積が確認できた。しかし、この調査区には盛土・耕土他、２ｍ以上の土層の堆積があり、掘削深度が深く、小面積で、しかも楠根川が隣接する最悪の条件下である。このため、調査作業をこのまま続行することは危険と判断し、掘削を打ち切った。なお、この砂層は南部に位置する第３調査区で河川３の下流部分と考えられる。

第７節　第６調査区

第４調査区から南東部約430ｍに設定した東西方向に伸びる調査区（長さ16×幅３ｍ）である。調査面積は約80㎡を測る。

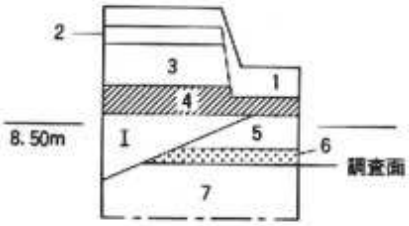
Ⅰ　基本層序

当調査区で調査した土層内に存在する７層を摘出して基本層序とした（第277図）。現地表面は標高8.8ｍを測る。以下、各土層について記す。

第１層　耕土：層厚10～15㎝。調査前までの耕作土で、耕作面が２つに分かれ、東部が低く西部が高い。約30㎝の高低差がある。

第2層　茶褐色細砂混シルト：層厚10cm。西部の高い部分にだけ堆積する土層で、近年に盛土した土層である。

第3層　褐灰色細砂混シルト：層厚20cm。この土層も第2層と同様、盛土した土層である。時期的にやや古い（江戸時代ごろ）。



第277図　基本層序柱状図（S＝1／40）

第4層　淡灰褐色細砂混粘質土：層厚10～15cm。耕土の床土である。

第5層　淡灰黄色細砂シルト：層厚20cm。この土層の上面から鎌倉時代に比定される溝（I）が切り込まれている。

第6層　淡灰茶色細砂混粘質土：層厚10～15cm。弥生時代後期の遺物の小片が少量含まれている。

第7層　茶灰～淡灰黄色シルト：層厚30cm以上。この上面から弥生時代後期の遺構が切り込まれており、調査面とした。上面の標高は、8.3mを測る。

Ⅱ　検出遺構・出土遺物

当調査区は昭和62年度第10次調査の第9調査区の西側に当たる。この調査区では第5層上面を調査面とした。その結果、弥生時代後期に比定される溝3条（ＳＤ４～ＳＤ６）と、鎌倉時代に比定される溝11条（ＳＤ７～ＳＤ17）と第4層上面から切り込む溝1条（ＳＤ18）を検出した（第278・279図）。遺物は、第4層内から弥生時代後期～鎌倉時代に比定される土器の小片が少量出土している。

1）弥生時代後期

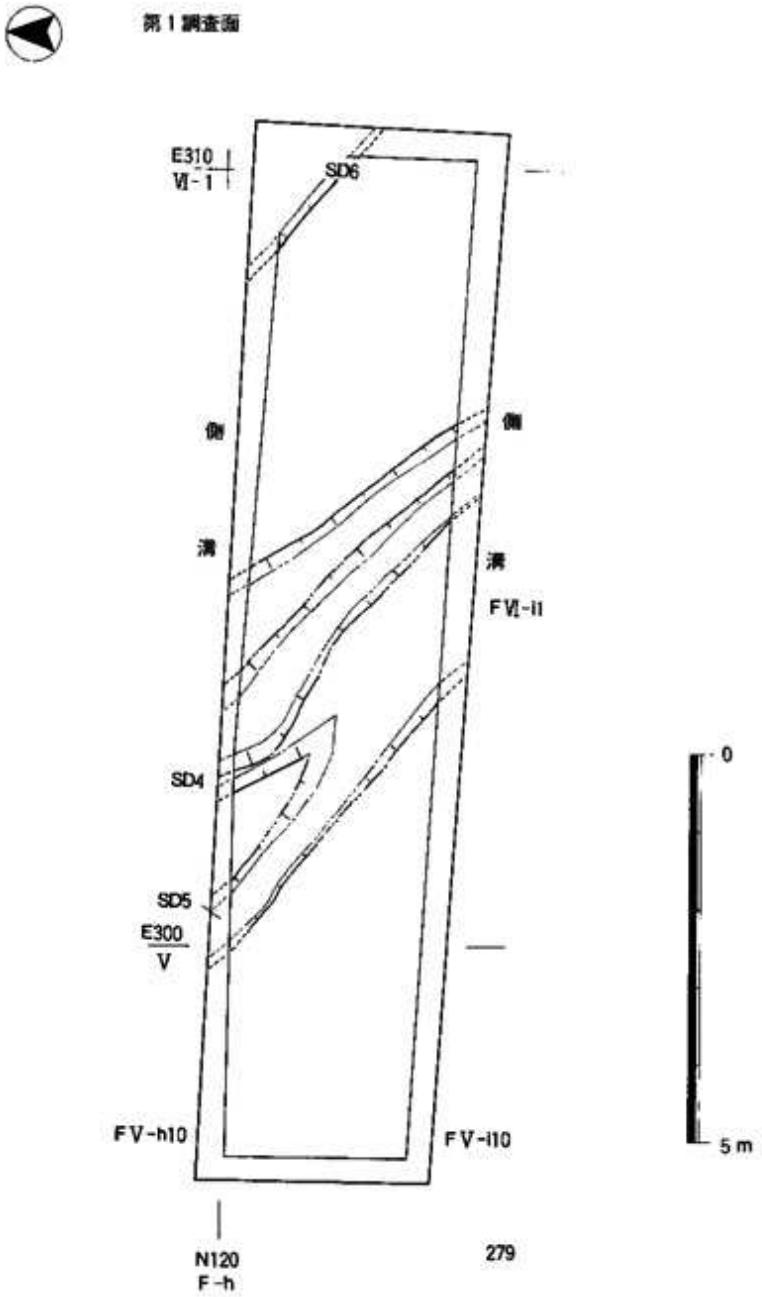
溝（ＳＤ）

ＳＤ４

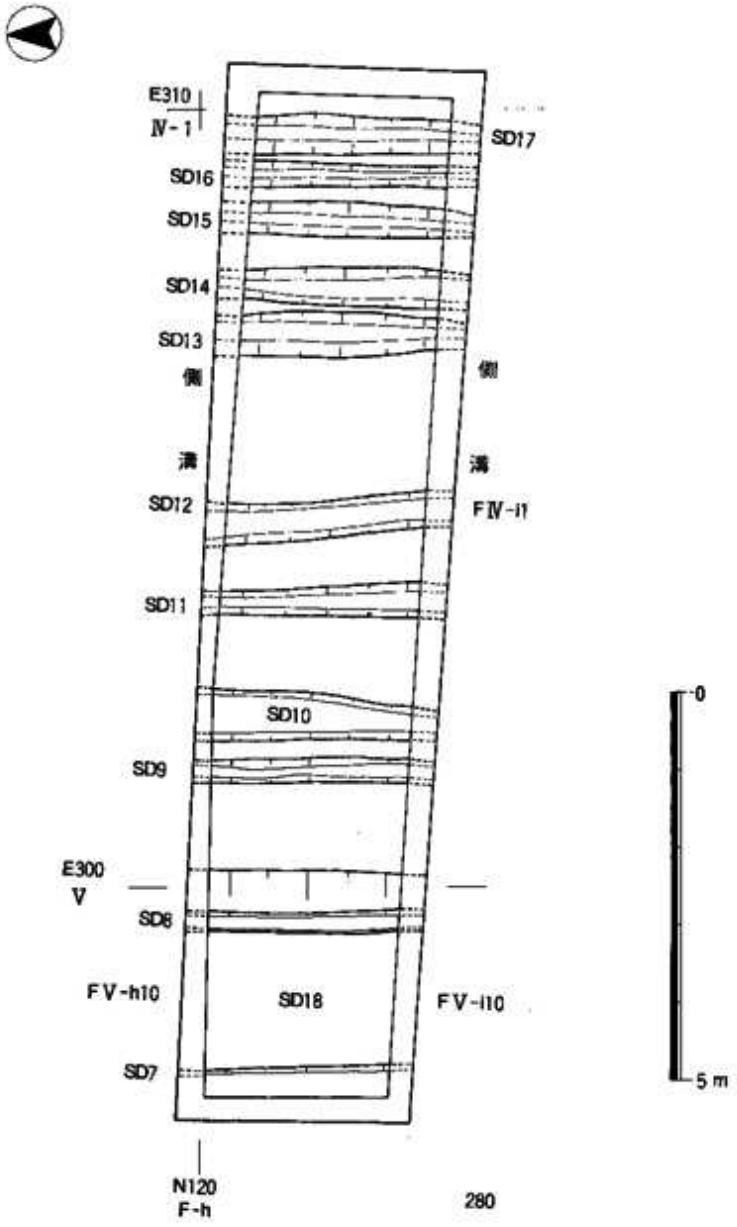
調査区の中央部で検出した。方向は南東ー北西方向を示し、南北はともに調査区外に至る。西部はＳＤ５が合流している。検出面の一部は鎌倉時代の溝（ＳＤ10～ＳＤ12）で切られている。規模は検出部で、幅3～3.2m、深さ40cmを測る。断面は逆台形を呈し、やや中央部が深くなっている。堆積土は、暗灰褐色細砂混粘質土である。遺物は、内部から畿内第Ⅴ様式に比定される壺・甕などの小片がごく少量出土している。

ＳＤ５

調査区の西部で検出した。東部はＳＤ４と合流する。方向は南東ー北東方向を示し、北部は



第278図　第1調査面遺構平面図

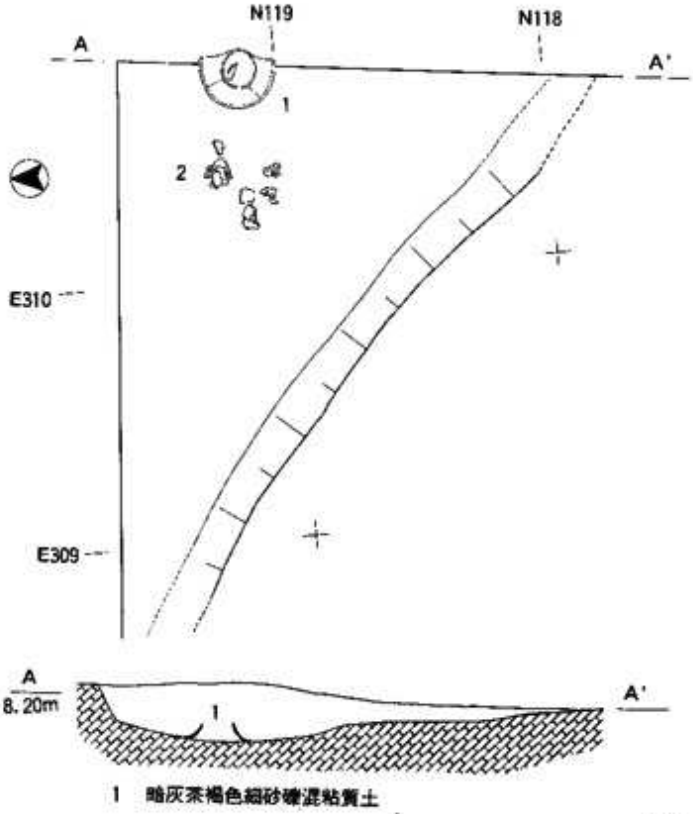


第279図　第2調査面遺構平面図

調査区外に至る。規模は検出部で、幅40～85cm、深さ25cmを測る。断面は半円形を呈する。堆積土は、暗灰褐色細砂混粘質土である。遺物は出土していないが、ＳＤ４と合流することかから時期は弥生時代後期に比定されよう。

ＳＤ６

調査区北東隅で検出した。北東部は調査区外に至り、不明であるが、ＳＤ４と同一方向を示すものと思われる。規模は検出部で、幅１ｍ、深さ58cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は、暗灰茶褐色細砂混粘質土である（第280図）。遺物は内部から畿内第Ⅴ様式に比定される壺（１）・甕（２）などの小片が少量出土している（第281図）。



第280図　ＳＤ６検出遺構及び断面図

第281図　ＳＤ６出土遺物実測図

ＳＤ７～ＳＤ17

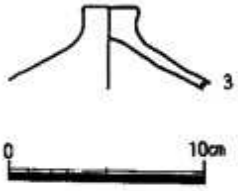
調査区内に鎌倉時代に比定される溝11条を検出した。方向はすべて南北方向を示し、南北はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅15～50cm、深さ５～35cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は淡灰茶色細砂混粘質土である。これらの溝は唐鋤溝・畝溝などの農耕に関連するものと考えられる。遺物は、内部から弥生時代後期～鎌倉時代に至る土器の小片がごく少量出土している。以下、個々の溝の法量・形状については第31表に記す。

第31表　溝（ＳＤ）一覧表　　＊　単位：cm

遺構番号	地　区	方　向	断面形	幅	深　さ	堆　積　土	備　考
ＳＤ７	ＦＶ－i10	南－北	逆台形	70以上	15～18	淡灰茶色細砂混粘質土	
ＳＤ８	ＦＶ－i10	南－北	逆台形	35～40	12～15	淡灰茶色細砂混粘質土	
ＳＤ９	ＦⅣ－i1	南－北	逆台形	30～50	８～20	淡灰茶色細砂混粘質土	
ＳＤ10	ＦⅣ－i1	南－北	逆台形	35～60	18～21	淡灰茶色細砂混粘質土	
ＳＤ11	ＦⅣ－i1	南－北	逆台形	35～45	18～20	淡灰茶色細砂混粘質土	
ＳＤ12	ＦⅣ－i1	南－北	逆台形	43～46	35～40	淡灰茶色細砂混粘質土	
ＳＤ13	ＦⅣ－i1	南－北	逆台形	45～60	７～10	淡灰茶色細砂混粘質土	土師器片
ＳＤ14	ＦⅣ－i1	南－北	逆台形	36～40	８～12	淡灰茶色細砂混粘質土	
ＳＤ15	ＦⅣ－i1	南－北	逆台形	34～38	８～10	淡灰茶色細砂混粘質土	
ＳＤ16	ＦⅣ－i1	南－北	逆台形	25～28	５～９	淡灰茶色細砂混粘質土	
ＳＤ17	ＦⅣ－i1	南－北	逆台形	38～42	12～14	淡灰茶色細砂混粘質土	土師器片

ＳＤ18

調査区の西部で検出した。方向は南北方向を示し、南北・西部はともに調査区外に至る。ＳＤ５・ＳＤ７・ＳＤ８の上面を削平している。規模は検出部で、幅４ｍ、深さ20～38cmを測り、西側が深くなっている。断面は浅い逆台形を呈する。堆積土は、褐灰色粘質微砂である。遺物は、出土していないが、時期は層位的にみて江戸時代以降であろう。



第282図　遺構に伴わない出土遺物実測図

３）遺構に伴わない出土遺物

第３・４層内から出土している。出土量はコンテナ箱にして約1/2箱分を測る。時期は、弥生時代後期～江戸時代に至る遺物である。図示できたものについて記す。畿内第Ⅴ様式に比定される壺（３）である（第282図）。

第8節　第7調査区

当区画整理事業区域内の南東隅付近で設定した東西方向に長い調査区（18×6ｍ）である。調査面積は108㎡を測る。

Ⅰ　基本層序

当調査で調査した土層内に存在する6層を摘出して基本層序とした（第283図）。現地表面は標高10ｍを測る。以下、各土層について記す。

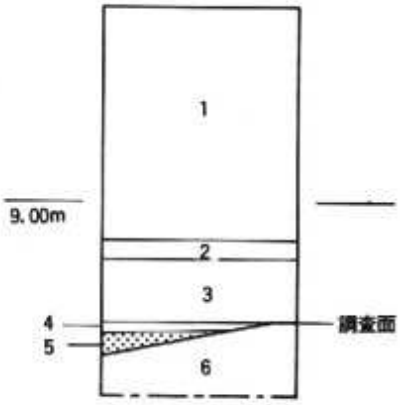
第1層　盛土：層厚1.2ｍ。昭和60年度の区画整理事業で整地した盛り土である。

第2層　旧耕土：層厚10㎝。整地されるまでは耕作土であった。

第3層　暗茶褐色粘質土：層厚5～10㎝。古墳時代～鎌倉時代に至る遺物がごく少量含まれている土層で、西側には堆積していない。

第5層　明黄褐色粘質土：層厚0～15㎝。古墳時代前期に比定される遺物の小片が少量含まれている土層で、西側には堆積しない。

第6層　青灰色粘質シルト：層厚30㎝以上。上面では古墳時代前期の以降が切り込まれており、西側が高く、東側へ緩やかに傾斜している。



第283図　基本層序柱状図（S＝1／40）

Ⅱ　検出遺構・出土遺物

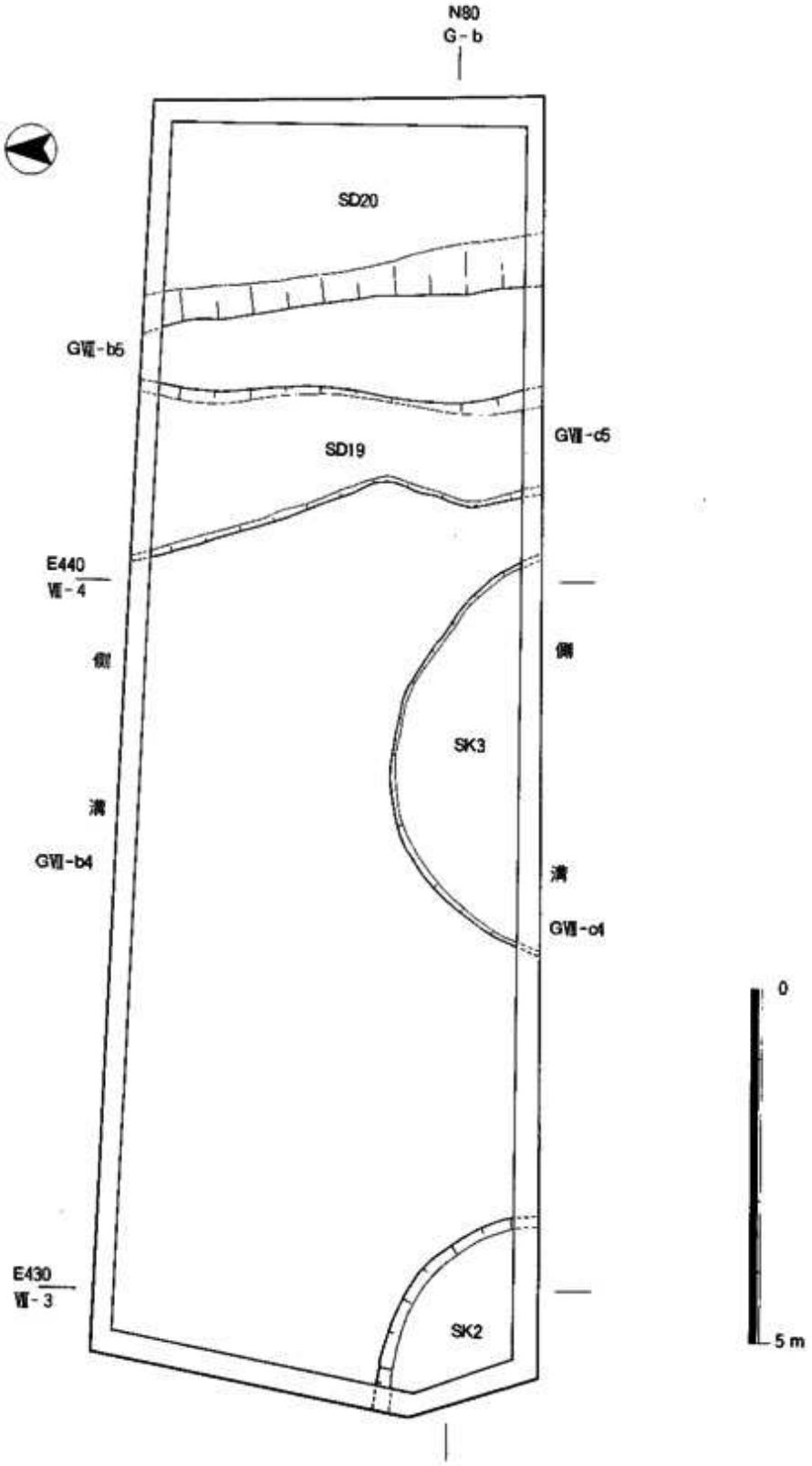
当調査区では、西側へ行くに従い低く傾斜する第6層上面を調査面とした。その結果、弥生時代後期に比定される土坑2基（ＳＫ２・ＳＫ３）と、鎌倉時代に比定される溝2条（ＳＤ19・ＳＤ20）を検出した（第284図）。遺物は第5層内で弥生時代後期～古墳時代前期に至る土器の小片と、第4層内で古墳時代～中世に至る土器の小片がごく少量出土している。

1）弥生時代後期

土坑（ＳＫ）

ＳＫ２

調査区の南西隅で検出した。南部・西部は調査区外に至り、平面の形状は不明である。規模

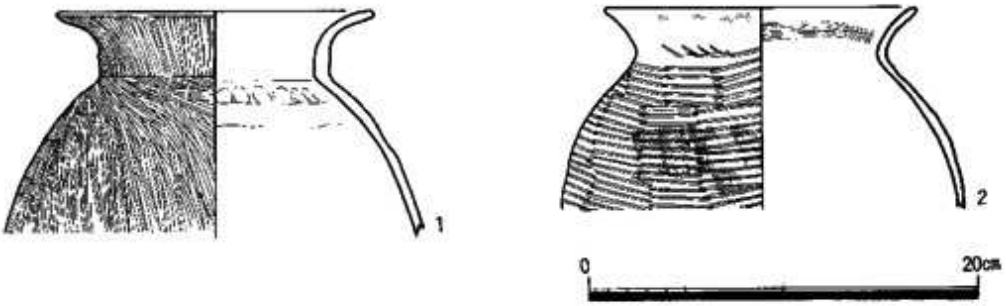


第284図　第7調査区遺構平面図

は検出部で、東西1.5m、南北1.4m、深さ20cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は、暗灰青色粘質土である。遺物は、内部から畿内第Ⅴ様式に比定される壺・甕などの小片がごく少量出土している。

ＳＫ３

調査区の南部で検出した。平面は検出部で半円形を呈し、南部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西4.5m、南北1.2m、深さ25cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は、暗灰青色粘質土である。遺物は、内部から畿内第Ⅴ様式に比定される壺（1）・甕（2）・高杯などの土器片と銅鏃１点（3）が出土している（第285・286図）。なお、調査中に壁面が崩壊し、断面図が取れず詳細なことは不明であるが、この遺構は円形の竪穴式住居ではないかと考えられる。



第285図　ＳＫ３出土遺物実測図

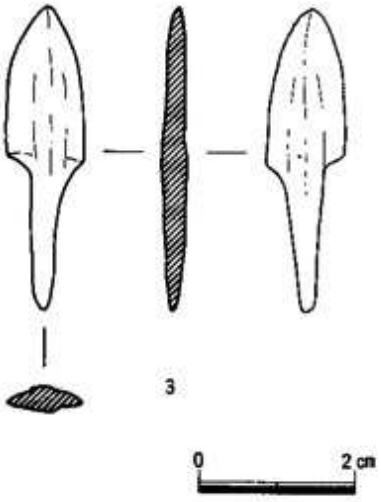
溝（ＳＤ）

ＳＤ19

調査区の東部で検出した。方向は南北方向を示し、南北はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅2.2～2.4m、深さ20～30cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は、にぶい赤褐色粘質土である。遺物は出土していない。

ＳＤ20

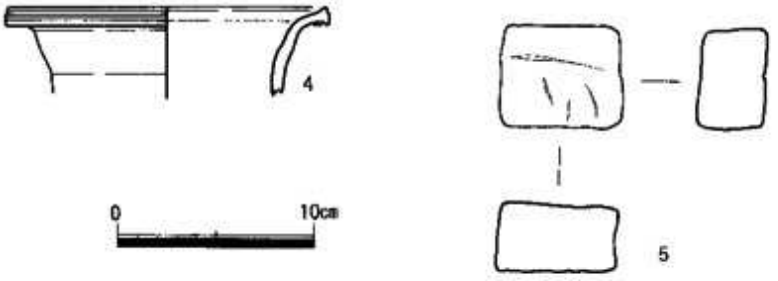
ＳＤ19の東部で検出した。方向は南北方向を示し、南北・東部はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅約３m、深さ25cmを測る。堆積土は、明黄褐色細砂である。遺物は出土していない。



第286図　ＳＫ３出土銅鏃実測図

3）遺構に伴わない出土遺物

第4・5層内から出土している。出土量はコンテナ箱にして1/2箱分である。時期は弥生時代後期～古墳時代前期に比定される遺物である。以下、図示できたものについて記す（第287図）。弥生時代後期末に比定される壺（4）、方形の不明土器（5）である。



第287図　遺構に伴わない出土遺物実測図

第1調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1	壺 （土師器） 包含層		口縁部端部・体部以下は欠損。口縁部は外方へ外反して伸びる。端部は上方へ拡張し、面をもつ。口縁部外面には円形浮文が巡る。 内外面ヨコナデ。	淡茶褐色	6mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
2 一三九	円筒埴輪 （土師質） 包含層	タガ上幅 0.6 下幅 0.7 高さ 1.6 胴径 22.6	中位付近の破片である。口縁部・体部は欠損。外面にはタガ1帯がみられる。断面には接合部が残り、体部内面には1本の接合痕がみられる。 外面ハケナデ（10本）、内面ナデ。	淡茶色	1mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
3	椀 （黒色土器） 包含層	底径 6.0	杯部は欠損。底部は平らで、断面逆台形の高台が付く。底面には墨書がみられるが、解読は不明。 内外面ナデ。	淡茶色	1mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
4	同上 包含層		杯部上位は欠損。底部は平らである。底面には墨書がみられるが、解読は不明。 内外面ナデ。	淡灰褐色	1mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
5	鉢 （美濃焼） 包含層	口径 10.4 器高 2.2 底径 6.3	平らな底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。断面逆台形の高台が付く。 内外面回転ナデ。	灰黄色	精良。	良好	内外面に釉を施す。

第3調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm)　器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1 一三九	甕 （土師器） 河川3	口径 14.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、内傾する面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（上6本・中7本）、内面ヘラ削り。	乳茶灰色	1mm以下の雲母・長石・赤褐色酸化粒等の砂粒を多量に含む。	良好	
2 一三九	小皿 （土師器） 河川4	口径 7.6 器高 2.0	膨らみをもつ底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面指押さえ、内面ナデ。	淡黄灰色	0.5mm以下の砂粒を微量に含む。	良好	完形。

第3調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 器高(cm)	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
3	甕 (土師器) 包含層	口径 31.0	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は上方へつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)。	暗茶褐色	3mm以下の長石・雲母・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
4	同上 包含層	口径 12.9	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	乳茶褐色	5mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良	
5	高杯 (上師器) 包含層	口径 17.6	平らな底部から屈曲し、上外方へ伸びた後屈曲して外上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は外傾する回面をもつ。脚部は欠損。 内外面ハケナデ(10本)。	外 淡灰茶色 内 淡茶褐色	0.5mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む	良好	
6	同上 包含層	底径 13.0	杯部は欠損。脚部は下外方へ内湾気味に伸びる柱状部から屈曲し、外方へ外反気味に開く裾部に至る。端部は面をもつ。 柱状部外面ヘラ削り後ナデ、内面くりぬき、裾部外面ナデ、内面ハケナデ(10本)。	淡灰茶色	0.5mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
7	円筒埴輪 (上師質) 包含層	タガ上幅 0.3 下幅 0.2 高さ 1.0	中位付近の破片である。外面にはタガ1条がみられる。断面には接合部が残る。円形のスカシを有する。 外面ハケナデ(6本)、内面ナデ。	淡茶灰色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
8	杯身 (須恵器) 包含層	口径 15.6 器高 4.9 底径 11.4	平らと思われる底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。断面逆台形の高台が付く。 内外面回転ナデ。	暗青灰色	0.5mm以下の砂粒を微量含む。	良好	外面に自然釉付着。
9	壺 (須恵器) 包含層	底径 7.6	体部上位以上は欠損。体部は上外方へ伸びる。底部は突出しない平底。 内外面回転ナデ。	淡灰色	2mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	外面に自然釉付着。

第4調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 器高(cm)	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1 一三八	小型丸底壺 (土師器) 河川3	口径 10.0 器高 8.5 最大径 10.6	偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(11本)、体部外面上位ハケナデ(10本)後ヘラミガキ、中位以下ヘラミガキ、内面ナデ。	外 淡茶褐色 内 暗茶褐色	2mm以下の雲母・長石等の砂粒を微量に含む。	良好	完形。
2 河川5	甕 (土師器)	口径 26.6	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡灰黄色	1mm以下の長石・雲母角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
3 河川5	同上	口径 12.4	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 外面ヨコナデ後タタキ、内面ヨコナデ。	淡茶褐色	2mm以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
4 河川5	同上	口径 18.0	口縁部は上外方へ伸び、端部はつまみ上げ、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	暗茶褐色	1mm以下の石英・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
5 一三八 河川5	小型甕 (土師器)	口径 9.6 器高 9.2 最大径 11.0	偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底体部内面中位に1本の接合痕を有する。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(8本)後ナデ、内面ナデ。	淡茶褐色～乳褐色	4mm以下の長石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	
6 一三八 河川5	器台 (土師器)	底径 11.6	受部は欠損。脚部は下外方へ伸びる。端部は丸い。脚部中位には三方孔が穿かれている。 脚部外面上位指ナデ、中位以下ヘラミガキ内面ナデ。	外 淡茶色 内 淡灰褐色	0.5mm以下の長石・雲母等の砂粒を微量含む。	良好	

第６調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1 一三八	壺 (弥生式土器) SD6	口径 29.8	口縁部は上方へ外反して伸びた後外上方へ外反して伸びる。端部は下方に垂れ下がり、外側に面をもつ。体部は欠損。端部断面に２本の接合痕を有し、端部外面には１帯４本の波状文が巡る。 外面・口縁部内面上位ヘラミガキ、下位ナデ。	外 淡茶褐色 内 淡茶褐色～明茶色	6mm以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を多量に含む。	良好	口縁部内面上位に煤付着。
2	甕 (弥生式土器) SD6		体部は上外方へ内湾して伸びる。底部は丸底。口縁部・体部上位は欠損。 外面タタキ（３本）後１部ヘラ削り、内面ハケナデ（12本）。	外 淡茶色 内 淡灰褐色	1mm以下の砂粒を多量に含む。	良好	
3 一三八	壺蓋 (弥生式土器) 包含層	つまみ径 4.8 つまみ高 1.1	円柱のつまみから外下方へ伸びる。端部は欠損。 内外面ナデ。	外 淡茶褐色 内 暗茶色	2mm以下の角閃石・雲母・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	

第７調査区

遺物番号 図版番号	器種	出土地点 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1	壺 (弥生式土器) SK3	口径 15.9	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ大きく外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部中位以下は欠損。体部内面上位に２本の接合痕を有する。 外面ヘラミガキ、口縁部内面ヨコナデ、体部内面指ナデ後ナデ。	明茶灰色	4mm以下の長石・石英等の砂粒を多量に含む。	良	
2 一三九	甕 (弥生式土器) SK3	口径 11.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ハケナデ（外６本・内８本）、体部外面タタキ（３本）後ハケナデ（６本）、内面ナデ。	外 乳灰褐色 内 淡灰色	2mm以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
4	壺 (土師器) 包含層	口径 16.6	口縁部は上外方へ外反気味に伸びた後、端部付近で外上方へ短く伸びる。端部は上下に肥厚し、外傾する面をもつ。体部は欠損。 内外面ヘラミガキ？	外 淡茶色 内 暗茶褐色	3mm以下の長石・雲母・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
5 一三九	不明土製品 包含層		四角形を呈する。 ナデ。	灰色	精良	良好	

第８章　土器胎土の砂礫

土器の表面に見られる砂礫を裸眼と倍率30倍の実体鏡とで観察した。観察事項は、砂礫種とその粒形・粒径・量・色の４点である。また、石英と角閃石、輝石については、粒形から他形と自形の区分を行なった。粒形は、角、亜角、亜円、円の４段階に区分した。粒径は㎜単位で感覚的に測定した。量はごくごく僅か、ごく僅か、僅か、中、多い、非常に多いの６段階に区分した。火成岩で花こう岩、閃緑岩、流紋岩としたものは、岩石の全容がわかれば、石種が変ることがある。

識別できた砂礫種は岩石片として、花崗岩、閃緑岩、流紋岩、砂岩、泥岩、チャート、片岩、火山ガラス、鉱物片として、石英、長石、白雲母、黒雲母、角閃石、輝石、生物片として海綿の骨片である。各砂礫種の特徴について述べる。

花崗岩：色は灰白色、粒形が角、粒径が最大６㎜である。石英・長石、石英・長石・黒雲母のかみ合わせからなる。

閃緑岩：色は灰白色、粒形が角、粒径が最大１㎜である。石英・長石・角閃石、石英・角閃石のかみ合わせからなる。角閃石は柱状で顕著な結晶面が認められる場合がある。

流紋岩：色は赤茶褐色、灰色、灰白色、白色、無色透明で、粒形が亜角である。最大粒径は８㎜である。石基はガラス質で、石英や黒雲母の斑晶が含まれる場合がある。

砂岩：色は灰色、褐色、茶褐色で、粒形が亜角、亜円、粒径が最大７㎜である。細粒砂からなる。

泥岩：色は茶色、茶褐色、灰色、暗灰色、黒色、粒形が亜角、亜円、粒径が最大８㎜である。

チャート：色は灰色、茶褐色、灰色、暗灰色、黒色、粒径が最大３㎜である。

片石：色は灰色、灰白色、褐色、無色透明、粒形が亜角、亜円、粒径が最大５㎜である。泥質片岩、雲母片岩、石英片岩である。

火山ガラス：黒色、無色透明で、粒形が貝殻状、束状、板状、フジツボ状で、粒径が最大0.7㎜である。

石英：色は無色透明、粒形が角、粒径が最大６㎜である。複六角錐をなす石英、あるいはその一部が認められる石英が含まれる場合がある。

長石：色は灰白色、灰白色透明で、粒形が角、粒径が最大２㎜である。

白雲母：色は無色透明、板状で、粒径は最大0.2㎜である。

黒雲母：色は無色透明、板状で、粒径が最大２㎜である。

角閃石：色は黒色、粒形が角、粒径が最大１㎜、柱状、板状である。結晶面がある。あるい

は結晶面で囲まれている場合がある。

輝石：色は黒色、褐色透明で、粒形が角、粒径が最大0.7㎜、柱状である。あるいは結晶面で囲まれている。

海綿の骨片：色は白色、棒状である。粒径は最大0.7㎜である。

砂礫種構成をもとにⅠ～Ⅴの類型に区分される。

Ⅰ類型：花崗岩質岩・閃緑岩質岩起源と推定される砂礫を主とする。

a）花崗岩質岩・閃緑岩質岩起源と推定される砂礫のみからなる――Ⅰa類型

b）流紋岩質岩起源と推定される砂礫が含まれ、閃緑岩中には柱状で結晶面がある角閃石が含まれ、角閃石には結晶面があるものがある。――Ⅰb類型

c）流紋岩質岩起源と推定される砂礫、片岩、砕屑岩が含まれる。――Ⅰc類型

Ⅱ類型：流紋岩質岩起源と推定される砂礫を主とする。

a）流紋岩質岩起源と推定される砂礫からなる。――Ⅱa類型

b）安山岩質岩起源と推定される砂礫が含まれる。――Ⅱb類型

c）安山岩質岩起源と推定される砂礫、砕屑岩が含まれる。――Ⅱc類型

d）花崗岩質岩・安山岩質起源と推定される砂礫が含まれる。――Ⅱb類型

f）花崗岩質岩・安山岩質起源と推定される砂礫、砕屑岩が含まれる。――Ⅱd類型

g）花崗岩質岩起源と推定される砂礫が含まれる。――Ⅱg類型

h）砕屑岩が含まれる。――Ⅱh類型

Ⅲ類型：砕屑岩起源と推定される砂礫を主とする。

a）砕屑岩起源と推定される砂礫からなる。――Ⅲa類型

Ⅳ類型：片岩起源と推定される砂礫を主とする。

a）片岩起源と推定される砂礫からなる。――Ⅳa類型

b）砕屑岩が含まれる――Ⅳb類型

c）花崗岩質岩起源と推定される砂礫が含まれる。――Ⅳc類型

Ⅴ類型：花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とする。

a）流紋岩質岩起源と推定される砂礫を含む。――Ⅳa類型

他：Ⅰ～Ⅴ類型のいずれにも属さない砂礫である。

土器が出土した八尾市小阪合付近は旧大和川が運んできた砂礫からなる。柏原市船橋付近で合流する石川の砂礫には礫岩、砂岩、泥岩が比較的多く含まれている。小阪合付近では花崗岩質岩起源の砂礫を主とし、礫岩、砂岩、チャート、自形の石英などがごく僅かに含まれる。Ⅴ類型の砂礫が遺跡付近の砂礫に類似する。

遺跡を中心として近距離でⅠ～Ⅴ類型の砂礫を求めようとすれば、次のような地が推定され

る。Ⅰb類型の砂礫は吉備形特殊器台に含まれる砂礫構成と同じであり、岡山市足守川の砂礫と推定される。Ⅰc類型の砂礫は岡山市百間川遺跡の砂礫、旭川の砂礫に類似する。Ⅱb・Ⅱc・Ⅱd・Ⅱe・Ⅱf類型の砂礫は流紋岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、安山岩質岩起源と推定される砂礫を含むことから山陰地方、出雲から因幡にかけての付近が推定される。Ⅲ類型の砂礫は円磨度が高い砕屑岩粒を主として含むことから北摂方面、茨木市から高槻にかけての付近が推定される。Ⅳa・Ⅳb類型の砂礫は片岩起源と推定される砂礫からなることから、三波川帯の片岩分布域の河川、四国吉野川の砂礫であると推定される。Ⅳc類型の砂礫には花崗岩質岩が含まれていることから、三波川でも花崗岩類が流入する河川、紀ノ川の砂礫が推定される。上記以外の類型については推定しがたい。

第32表　土器表面の砂礫種観察表

資料番号	器種	岩石 花崗岩 裸眼	花崗岩 30倍	閃緑岩 裸眼	閃緑岩 30倍	流紋岩 裸眼	流紋岩 30倍	砂岩 裸眼	砂岩 30倍	泥岩 裸眼	泥岩 30倍	チャート 裸眼	チャート 30倍	片岩 裸眼	片岩 30倍	火山ガラス 裸眼	火山ガラス 30倍	鉱物 石英 裸眼	石英 30倍	長石 裸眼	長石 30倍	雲母 裸眼	雲母 30倍	角閃石 裸眼	角閃石 30倍	輝石 裸眼	輝石 30倍	焼土塊	類型
4－7 322	甕	M－微 角	L－微 角		L－稀 角													L－中	L－中	L－微	M 微	S 稀 板	M 稀 板	M－稀 E 赤	M 中			有稀	Ⅰa
4－7 316	甕					L－稀 亜角	M 微 亜角											M－中	L－多 E 多	M－微	M 微				S 稀 E 中			無	Ⅱb
4－7 320	甕					L－微 亜角	L－稀 角									M－稀 貝フ	M－多		L－非 E 中		M 微		S 稀 板		S 微 E 非			有微	Ⅱb
4－7 352	甕						L－微 亜角									S 稀 貝板	L－微		L－非 E 多		M 微	S 稀 板			S 微			無	Ⅱa
4－7 343	甕					L－微 角	L－微 亜角		M 稀 亜円									L－中	L－多 E 多	M 微		M－微 微	M 稀 板		M－微 E 微		M 稀 E 非	無	Ⅱc
4－7 312	甕							L－中 亜円	L 稀 亜角	L－微 亜円	L 稀 亜角	L－稀 亜角						S 微		S 稀								有微	Ⅲa
4－7 324	甕		L 稀 角			L－微 角	L－微 角		M 稀 亜円									L－多	L－多 E 中	S 微	M 微		M－稀 板		S 稀 E 稀			有微	Ⅱf
4－7 311	甕					L－中 角	L 稀 角									M 微 貝フ	M－稀		L－多 E 微	M－微	M 微				S 微		S 稀	無	Ⅱb？
4－7 342	甕	L－微 角	L－微 角		L 稀 角													M－微	L－多 E－微	M－微	M 微			M－稀	M－中 E 中			有中	Ⅰb
4－7 345	甕					M－微 亜角	L－微 亜角			M－微 亜角		L－稀 亜円						M 多	L－中 E 多	M 微	M 稀				S 微 E 中			有微	Ⅱc
4－7 344	甕					L－稀 角										M 中 貝フ	M－多		L－非 E 多	M－稀	M 稀			M－稀	S 稀 E 非			無	Ⅱb
4－7 48	甕						L 微 亜角		L 稀 亜円							S 微 貝フ	M－多		L－非 E 微		S 微				M－稀 E 稀			無	Ⅱc
4－7 339	甕	M 微 角	L－微 角		L 稀 角													M－微	M 中 E 微	M－稀		M－微		M－微	M 中 E 小			無	Ⅰa
4－7 337	甕		M 稀 角		M 稀 角	M－稀 亜角	L－稀 角							L 稀 亜角	L－稀 亜円			M－微	L－中 E 微	M 微	M 微	M 微 板	L 微 微		M 稀			無	Ⅰc

資料番号	器種	岩石鉱物																										焼土塊	類型
		花崗岩		閃緑岩		流紋岩砂岩				泥岩		チャート		片岩		火山ガラス		石英		長石		雲母		角閃石		輝石			
		裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍		
4－7 341	甕	M－微角	L－稀角				L－微角		M 稀亜円		M 微亜円				L－微亜円		M－稀フ	M－中	L－非E多	M－微	S 微		M－微板	S 微	M 稀E非			有微	Ⅱe
4－7 340	甕								M 稀亜円			L－稀亜角			L－稀亜円			M－中	L－多E微				M 稀板		S 微			有微	他
4－7 338	甕		M 稀角		M 稀角				M 稀亜円		S 稀亜円				L－微亜円		M 稀フ	M－微	M－中E微	S 微	M 稀	S 微板	M 微板粉		S 稀E微			無	Ⅰc
4－7 346	甕						L－微角											M－稀	L－多E微	M－微		M－微板	S 微板	M－微	M－微E微		S 微E非	有稀	Ⅱb
4－7 347	甕		L－稀角															M－中	L－非E微	M－微	S 微	M－中板	M－微板		S 微			無	Ⅴa
4－7 325	甕													L－微亜角	L－微亜角		M 稀貝フ	M－微	S 多	S 稀	S 微		SW微板		S 微			有微	Ⅳa
4－7 332	甕													M－微亜角	L－微亜円			S 微	M－微				SW中板		S 微			有微	Ⅳa
4－7 329	甕														L－微亜角				S 多	L－稀	S 微	M－微板	SW微板		M－稀			有微	Ⅳa
4－7 333	甕													L－微円	L－微亜角		S 稀貝		S 中				SW微板		S 稀			有微	Ⅳa
4－7 334	甕														L－微角		L－微貝フ	M－稀	S 多	M－稀		S 稀板	SW微板		S 微			有微	Ⅳa
4－7 326	甕						M 稀亜角							L－微角	M 微亜円			M－微	S 多				SW微板		S 稀E稀			有微	Ⅳa
4－7 330	甕														L－中角		M 稀貝フ	L－稀	S 多		L 稀		S 微板		S 微			有微	Ⅳa
4－7 331	甕													M－微亜角	L－微亜角		S 微フ貝		M－中				SW中板		S 微			有微	Ⅳa
4－7 227	甕									M－稀亜円					L－微亜円			L－多	L－多				SW微板		S 稀			無	Ⅳb

資料番号	器種	岩石																鉱物										焼土塊	類型
		花崗岩		閃緑岩		流紋岩		砂岩		泥岩		チャート		片岩		火山ガラス		石英		長石		雲母		角閃石		輝石			
		裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍		
4－7 50	壺							L－極円	L 極円	L－極円	L 極円				L 微円		S 微円		S 中				SW極板		S 稀			有僅	Ⅳb
4－1 420	鉢		M 稀角			L－多亜円	L－微亜角						M 稀亜円		M 稀亜円		M－稀員フ	M－中	M－中 E 僅	M－微	M 中				S 稀 E 中			無	Ⅱd
4－ 464			L－微角				L－僅亜角											M－微	M－多 E 稀	M－微	S 微							有僅	Ⅱg
4－7 335	甕													L－極亜角	L－極亜角		M 微東山	M－微	S 極	M－僅	M 稀		SW微板		S 微			有僅	Ⅳa
4－9 61	甕	M－微角	L－稀角														M－微員フ	L－中	L－多 E 中	L－微	M 微				S 稀 E 僅		S 稀 E 多	無	Ⅱd
4－9 63	甕						L－微亜角				S 稀角							M－僅	M－多 E 稀		M 微	L－微板	L－微板		S 微 E 僅			無	Ⅱc
4－9 60	甕		L 微角														M－中フ員	M－僅	L－多 E 微		M 微		M 稀板	M－微	S 稀 E 稀			無	Ⅱd
4－7 52	甕							L－微亜円	L 上微亜円										S 多		S 僅				S 稀			有稀	Ⅲa
4－7 56	甕		M 稀角				M 微亜角			M 稀円	M 微円				M 稀円		S 微員フ	M－中	L－多 E 僅		M 微		M 稀板	M－僅板	M－僅 E 多			無	他
4－7 57	甕	M－微角	L 稀角		L－微角													M－中	L－多 E 稀	S 中	M 中		M 微板	M－僅	L－中 E 僅			有微	Ⅰb
4－7 51	甕		M 微角			L－微角				S 稀亜円								M－僅	M－多 E 僅	M－微	M－僅	M－微板	M 微板		S 僅			無	他
4－5 2	壺					M－稀角	L－微亜角											S 稀	M－中 E 中		M 微				S 微			有微	Ⅱa
4－5 9	甕		L－稀角																M－中 E 僅		M 僅		M 稀板		S 中 E 多			無	他
4－5 5	甕					M－僅角	L－稀角	M－微亜角									M－中フ京	M－稀	L－中 E 中	M－僅	S 微	M－稀板	M 微板		S 微			無	Ⅱh

資料番号	器種	岩石																鉱物										焼土塊	類型
		花崗岩		閃緑岩		流紋岩		砂岩		泥岩		チャート		片岩		火山ガラス		石英		長石		雲母		角閃石		輝石			
		裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍		
4－5 29	甕	M－稀 角	L－微 角		L－僅 角													M－中	L－多 E 微	S 稀	M 僅			S 微	M－僅 E 僅			無	Ⅰb
4－5 28	甕		M 稀 角											M－僅 角	L－稀 亜角		M 稀 フ	S 稀	S 僅						S 稀			有 稀	Ⅳc

裸眼＝裸眼観察　裸眼による観察：L＝粒径2mm以上　M＝粒径2mm未満 0.5mm以上　S＝粒径 0.5mm未満　非＝量が非常に多い　多＝量が多い　稀＝量が僅か　微＝量がごく僅か　稀＝量がごくごく僅か　30倍＝実体鏡の倍率が30倍　実体鏡による観察：L＝粒径1mm以上　M＝1mm未満 0.5mm以上　S＝粒径が 0.5mm未満　量は裸眼に同じ　－＝以下の粒径がある。　F＝自形あるいは結晶面がある　W＝白雲母が含まれる　板＝板状　貝＝貝殻状　束＝束状　フ＝フジツボ状　資料番号＝上に第○次調査第○調査区、下に遺物番号

第9章　まとめ

本書は、区画整理事業に伴う小阪合遺跡の発掘調査成果をまとめたもので、今回がその調査成果を報告する最終の報告書である。昭和57年度に第1次調査を実施してから8年が経過しており、この間、小阪合遺跡では当調査研究会をはじめとし、八尾市教育委員会及び大阪府教育委員会の機関がそれぞれ主体となって実施されている。それらの発掘調査では弥生時代から近世に至る多種多様の遺構・遺物が当遺跡内から発見されており、多大な成果が得られている。

当調査研究会が実施した区画整理事業に伴う発掘調査でも、多数の遺構及び多量の遺物（第288図～第290図に各時代の遺物を年表として掲載している）が発見されており、その成果は既往報告書でも報告している。今回はその最終報告である。

以下、各時代について述べる。

1）弥生時代中期

現在までの調査では、弥生時代前期の土器が弥生時代中期の包含層内や室町時代の自然河川の堆積土内から混入したかたちで出土している以外、当遺跡で生活遺構が検出されたのは中期の時期からである。遺構は区画整理範囲内の北西側にあたる第18次調査（ＫＳ89－18）で検出している。現地表下約3.5m（標高約5m）の土層面から遺構が密集した状況で検出している。この調査では小面積な調査区であるため全体的なことは不明であるが、住居に関連する遺構も確認している。

出土遺物では土器類をはじめとし、石器・木製品・木の実などがある。出土量は小面積にもかかわらず第18次調査からコンテナ箱にして約20箱分に及び多量の遺物を出土しており、集落の中心地付近であると考えられる。出土遺物の大部分は第Ⅱ～Ⅲ様式に比定される土器類であるが、その中に交じって製品及び未製品のサヌカイト製の石器が出土している。この調査成果については現在調整中であり、詳細なことについてはその後の報告書で報告する予定である。

2）弥生時代後期末

区画整理範囲内の中央部と南東部に分布している。検出面は標高7m前後で、古墳時代前期（庄内式期～布留式期）の検出面とほぼ同一レベル高である。遺構は第1次・第3次・第4次・第6次・第10次・第13次の調査で検出している。遺構は集落遺構に関連する遺構が大部分で、種別すれば井戸・土坑・小穴・溝などである。住居域の中心は区画整理範囲内の中央南部の第10次第9調査区付近で、この調査区の全面から遺構を検出しており、集落の中心付近であることが想定できる。

出土遺物には弥生土器・銅鏃・石器などがあり、住居に関連する遺構の埋土内から出土して

いる。

3）古墳時代前期（庄内期～布留期）

区画整理範囲内の全般に分布している。時期には庄内期と布留期に大きく分けることができる。庄内式の時期は区画整理範囲内の西部沿いと南東部付近で検出した。検出した遺構には住居域に関連するものが南部の第４次第８調査区・第13次第10調査区の調査で、墓域に関連するものが第３次第７調査区で確認している。さらに庄内式期を古相と新相に分けられることができるが、トレンチの調査であり詳細な分布状況は不明である。現在の調査成果では遺構の範囲や拡がりについてはほぼ同じ位置で営まれていたと考えられる。

布留式の時期は庄内式の時期とほぼ同じ区域であるが、ややその範囲より拡がって存在している。集落構成としては明確に断定できないが、居住域は現在のところほぼ区画整理範囲内の西部にあたり、墓域がその東南部に存在することが言えよう。

出土遺物では土坑・溝などの遺構内から集積した状況で出土するものが多い。土器型式では庄内式土器と布留式土器があり、庄内式土器には古相から新相に至るものが出土している。一括出土したものとしては古相のものが第３次第６調査区ＳＷ１・第７調査区ＳＤ314・ＳＤ316から出土した土器で、中相のものが第３次第７調査区から出土した土器、新相のものが第４次第７調査区から出土した土器である。布留式土器では古相のものが第４次第５調査区から出土した土器、中相のものが第４次第１調査区から出土した土器、新相のものは第４次第１調査区から出土した土器などである。また、庄内式土器から布留式土器の器種内には在地土器以外のものが含まれている。吉備地方・山陰地方・讃岐地方・紀ノ川流域・東海地方などの遠方の他地域から持ち込まれている。比率では庄内式期より布留式期（古相）に比定される土器集積内から非常に多く含まれており、在地土器と他地域とは８：２の割合の統計がでている。この比率は八尾市域で一括土器出土している布留式古相のものでも言えることであるが、当遺跡の南側に隣接する中田遺跡の調査（中田１丁目39）で出土している土器に次いで多い比率である。また庄内式甕には生駒山西麓の胎土を使用したものと在地の胎土を使用したものがあり、生駒山西麓のものが８割を占める。第１次・第３次の調査報告では他地域の形態のものについては胎土分析を実施しており、その結果について既往の報告書で報告している。今回は第４次・第10次調査で出土した讃岐地方の形態をもつ土器について奥田尚氏に胎土分析をしていただいた。その結果は第８章に報告しているようにすべて他地方のものであることが判明しており、当遺跡の周辺が他地域と交流を盛んに行なわれていたことが窺える。特に西日本からのものが多く存在する。

比較例として、奈良県の纒向遺跡ではすべてが他地域のものであることが形態や胎土分析などの調査で判っており、当時の中心的な存在であったことを窺い知ることができる。

4）古墳時代中期

区画整理範囲内の南部と北東部に分布している。南部・西部は住居域、北東部は墓域に大きく分けることができる。住居域は第16次第2調査区ＳＫ７がある。ＳＫ７は平面の形状が不明であった為土坑と捉えているが中柱をもつ建物跡と考えられる遺構である。第1次Ａ－Ⅲ地域で検出したＳＫ14には韓式系土器が含まれる遺構である。第4次第2調査区でも小穴群が検出している。墓域は第4次第7調査区の円筒埴輪棺が検出した付近と第3次24－1地区で円筒埴輪片が多量に出土しており、北東部と西部中央付近がその範囲と言える。

出土遺物は土師器・須恵器・製塩土器に大別できる。須恵器は陶邑編年によるⅠ型式2～3段階に類似するものである。Ⅰ型式2段階に比定される須恵器が第4次第7調査区ＳＤ１上層で一括出土している。3段階に比定される須恵器は第1次Ⅱ地区ＳＤ17・18・Ⅲ地区のＳＫ14で、4段階に比定される須恵器は第13次第2調査区ＳＫ13で出土している。

5）古墳時代後期

区画整理範囲内の北部と南部に分布がみられる。遺構は第8次第1調査区で検出している。全容は不明であるが土坑状遺構・溝状遺構を検出している。

出土遺物は土師器・須恵器・石製品に大別できる。須恵器は須恵邑編年のⅢ～Ⅳ型式、土師器は藤原京編年のⅠ～Ⅲ型式がある。第8次調査では6世紀末から7世紀の時期の土器が平安時代末期の整地層内に混入して出土している。石製品では滑石製の勾玉・有孔円盤が出土している。また第8次第2調査区ＳＤ３では7世紀代の土器を一括出土しており、周辺に居住区が存在するであろう。

6）奈良時代

区画整理範囲内の西部の南北沿いに分布している。第1次・第3次・第4次の調査では掘立柱建物・井戸などの住居遺構を検出している。建物は調査区範囲が限られており、確認されたものでは2×2間をもつものが最も大きい規模のものである。建物群の西側では奈良時代の土器類が多量に含まれていた河川跡を検出しており、規模の大きい集落が存在していたことが想定される。

出土遺物は土師器・須恵器に大別できる。土師器は平城京編年のⅡ～Ⅳ型式のものである。第1次Ⅲ地区ＳＥ２、第3次25地区ＳＥ１、第8次第1調査区ＳＤ２・ＳＤ３である。

7）平安時代

区画整理範囲内の南部と北部に分布している。後期の時期は住居に関連する遺構であり、2つの集落が存在することは明らかである。南部では同時期の住居に関連する遺構を検出している中田遺跡に隣接しており、南への拡がりが考えられる。北部では整地した所に集落を形成している。第8次の調査では同一面から鎌倉時代まで続く井戸・柱穴を検出しており、永く集落が営

まれていたようである。

出土遺物は土師器・黒色土器・瓦器などである。前期のものは第10次第５調査区ＳＤ56から黒色土器の椀が出土している。中期のものは第１次調査Ⅲ地区落ち込み８、第５次調査ＳＥ１、第８次調査第４調査区ＳＥ１である。後期のものは第４次・第８次の曲物井戸内から出土している。

８）鎌倉時代

区画整理範囲内の全般に分布している。検出している遺構の大半は水田遺構で、耕作に伴う鋤溝・畝溝などである。集落に関連する遺構としては、区画整理範囲内の南部と北西部の一部で確認された。建物跡は明確なものはなかったが柱跡と考えられる小穴を多数検出している。また、生活水としたと考えられる枠を設けた井戸も検出している。種類としては曲物・羽釜・くりぬきの丸太木がある。大半は曲物を用いた井戸である。北部で検出された集落は平安時代から続く集落である。

出土遺物には土師器・瓦器・磁器・瓦がある。第４次第７調査区ＳＥ８、第８次井戸から出土している。

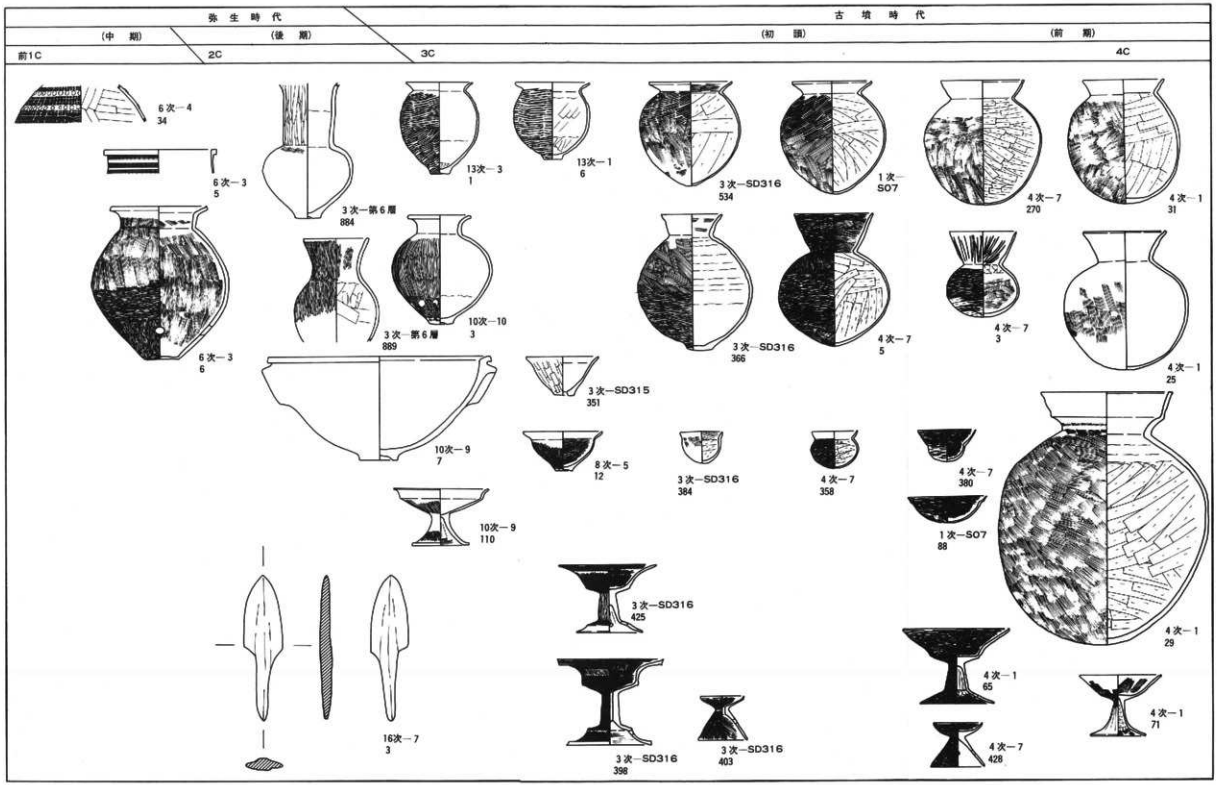
９）室町時代

区画整理範囲内の全般に分布している。遺構は鎌倉時代とほぼ同様の水田遺構が大半を占めている。集落跡と考えられる遺構は区画整理範囲内の北西部の中央よりの第８次第２調査区で井戸・小穴を検出している。この調査区では屋敷跡の小字名が残っており、集落の可能性が考えられる。

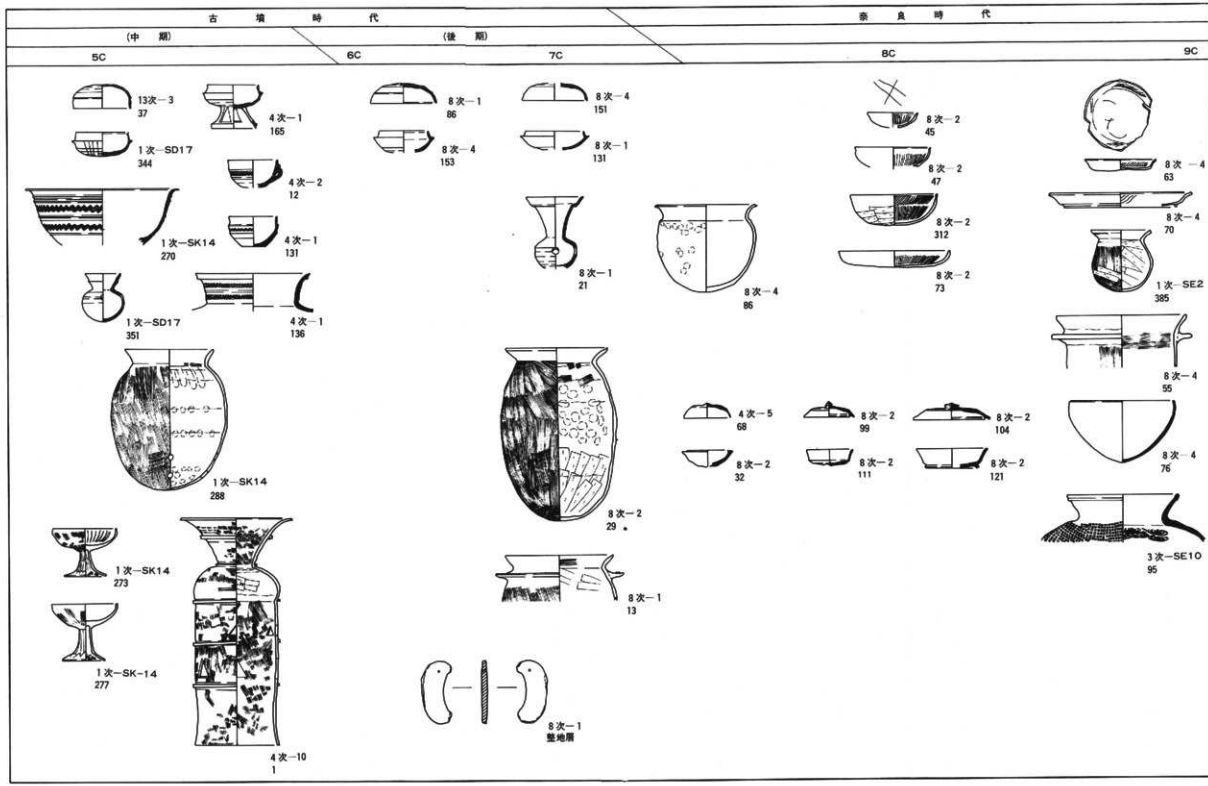
出土遺物には土師器・瓦器・陶質土器・磁器・瓦がある。第８次第２調査区池状遺構から中国製磁器・陶質土器などの高級な日常雑器も出土しており、調査区付近には豪族の屋敷跡が建っていた可能性が考えられる。

追記

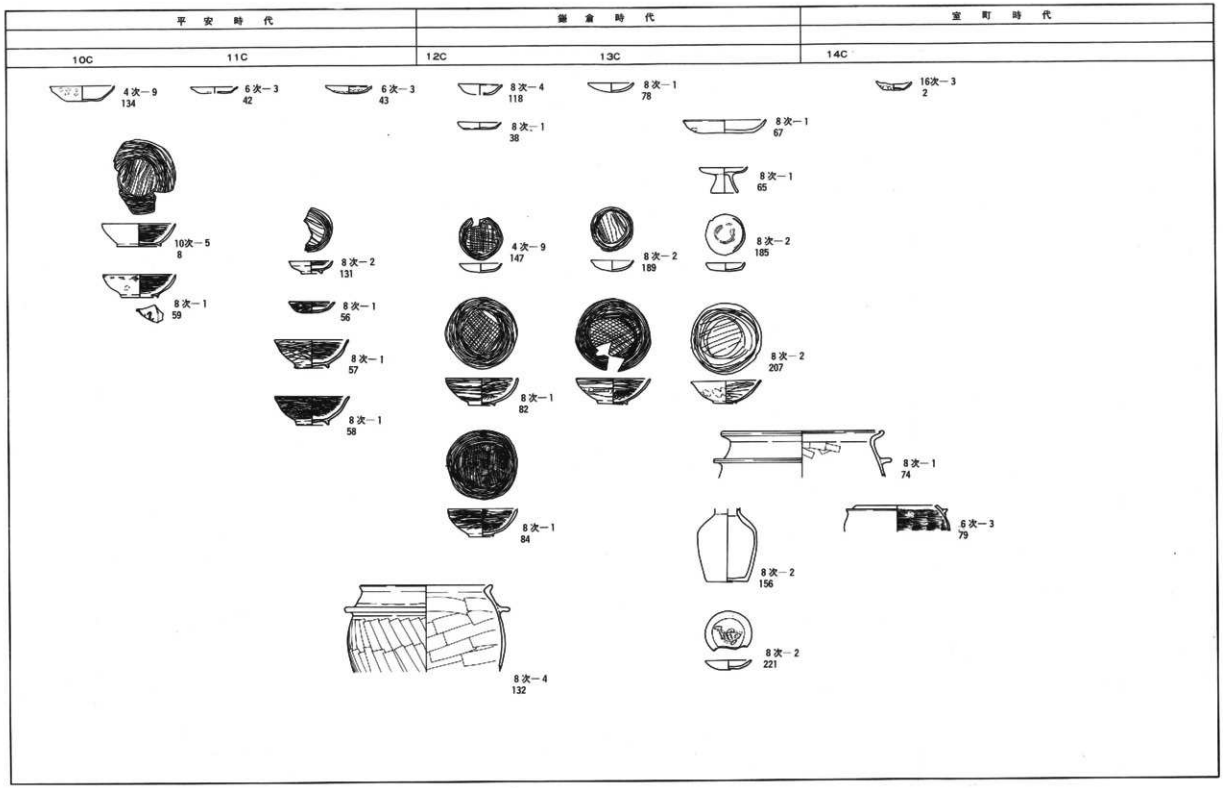
今回の報告は、今までの成果を踏まえて当遺跡の調査成果について一括してまとめたいと考えていたが、事業者より早期に報告書を作成してほしいとのことで、制約された時間内の報告刊行であり、中途半端なまとめになったことは遺憾に思う。今後、小阪合遺跡の調査成果資料を研究発表として報告して行きたい。



第288図　小阪合遺跡出土遺物年表1



第289図　小阪合遺跡出土遺物年表2



第290図　小阪合遺跡出土遺物年表3

(財)八尾市文化財調査研究会報告 26

小 阪 合 遺 跡 (本文編)

－八尾市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査－

〈昭和61年度第8次　昭和62年度第10・13次　昭和63年度第16次調査報告〉

発　行　　平成3年3月

編　集　　財団法人 八尾市文化財調査研究会
〒581 大阪府八尾市清水町1丁目2番1号
TEL (0729)94－4700

印　刷　　株式会社 近畿印刷センター
〒582 大阪府柏原市本郷5丁目6番25号
TEL (0729)72－5918

表　紙　レザック66　　〈260 kg〉
本　文　書籍用紙　　〈 70 kg〉

214